

## 第4章 オノマトペと体言型・用言型表現

第2章で日韓両語のオノマトペは副詞として用いられるのが基本的統語機能であることを見た。本章ではこの特徴も両言語の構造の特徴と密接な関係があり、おそらくはオノマトペ発達の要因となったと考えられることを論ずる。

### 4.1 体言型言語と用言型言語

「バタ臭い日本語」という表現がある。文法的に間違っているというのではないけれども、どこか日本語の表現としては不自然で、英語からの直訳調の感じが強い表現のことを言う。韓国語には「バタ臭い」に当たる慣用表現はないけれども、<sup>1</sup> ある種の表現が翻訳調で不自然に感じられるという感覚は、おそらく日本語話者の場合と同様に持っている。

「バタ臭さ」というのは様々な要因によって生み出される複合的な感覚であるが、その典型的な例を挙げてみよう。

- (1) a) His unexpected visit surprised us all.  
b) 彼の思いがけない訪問が私たちみんなを驚かせた。  
c) 그의 뜻하지 않은 방문이 우리 모두를 놀라게 했다.

(1a)の英文の構造を分析してみると、主部の‘His unexpected visit’は動作名詞の‘visit’を中心語として、その訪問が思いがけないものであったという情報を付け加えるために、連体修飾語として過去分詞‘unexpected’を添加した名詞句である。この名詞句を主語に据えて、それが私たちすべて(us all)を驚かせた(surprised)という他動詞構文となっている。英語文としてはごく自然

---

<sup>1</sup> 「バタ臭い」の意味は韓国語では「서양 냄새가 풍기다」(西洋の匂いがする)、「서양 바람이 들다」(西洋かぶれしている)、「서양티를 내다」(西洋風の味がする)などで表される。いずれの表現も「서양」(西洋)の部分が高他語と置き換えて用いることができるから慣用表現ではない。

な普通の文である。ところが、この構造を変えないで(1b)や(1c)のように日本語や韓国語に訳すと、不自然ないわゆる「バタ臭い」表現になってしまう。意味は明らかに理解できるし文法的にも問題はないけれども、「日本語らしさ」、「韓国語らしさ」を欠いた表現となる。

(1b)と(1c)を日本語らしい表現あるいは韓国語らしい表現にするには、それぞれ、次のように変えればよい。

- (2) a) 彼が思いがけなくやってきて、私たちはみんな驚いた。  
b) 그가 갑자기 와서 우리는 모두 놀랐다.

日本語文(2a)では、「私たちはみんな驚いた」という自動詞文を主節として、驚きの原因である彼の訪問の事実を、「彼が思いがけなくやってきて」という副詞節で表現したものである。韓国語文(2b)もこれとまったく同じ構造であり、「우리는/urinûn/(私たちは)모두/modu/(みんな)놀랐다/nollatta/(驚いた)」という自動詞文の主節を、副詞節「그가」/kûga/(彼が)「갑자기」/kapchagi/(突然)「와서」/wasô/(やってきて)が修飾している構造である。

(1a)の英語文は無生物名詞を主語とするいわゆる「無生物主語構文」の文である。無生物主語構文を日本語や韓国語に直訳すると「バタ臭い」表現になることはよく知られている事実である。無生物主語構文にはいくつかのタイプがあるが、(1a)のように動詞あるいは形容詞からの派生名詞を主語とするものが多い。類例を挙げると次のようなものがある。<sup>2</sup>

- (3) a) Her *pleas* stopped him from fighting back.  
b) 彼女がやめてというので殴りかえすのをやめた。

<sup>2</sup> (3) - (18)を始めこの章で例示する英語文は、佐藤 (1997) 『基礎からベスト英文読解』などの学習参考書及び竹林他編(1996) 『ライトハウス英和辞典』(研究社)などの英語辞典から引用した。その日本語訳は原典のものをそのままあるいは若干の修正を加えて引用した。引用文のイタリック・下線及び韓国語訳は筆者によるものである。

- c) 그녀가 그만두라고 해서 그를 때리지 않았다.
- (4) a) A few minutes' *walk* brought him to the park.  
 b) 2, 3分歩いたら公園に出た。  
 c) 2, 3분 걸으니까 공원이 나왔다.
- (5) a) The widespread *use* of aerosol sprays has caused holes to appear in the ozone layer.  
 b) エアロゾル・スプレーが一般に広く使用されているために、オゾン層に穴が生じている。  
 c) 에어졸 스프레이가 일반적으로 널리 사용되고 있기 때문에 오존층에 구멍이 뚫려 있다.
- (6) a) The *appearance* of a comet in the night sky caused people long ago to tremble with fear.  
 b) 夜空に彗星が現れると、昔の人々は恐怖で身震いした。  
 c) 밤하늘에 혜성이 나타나면 옛날 사람들은 공포로 몸을 떨었다.
- (7) a) The *sight* of the clock reminded me that I was late.  
 b) 時計を見て、遅刻したことを知った。  
 c) 시계를 보고 지각한 것을 알았다.
- (8) a) A little *consideration* will make you realize how dangerous the attempt was.  
 b) 少し考えてみれば、その試みがどんなに危険だったかわかるだろう。  
 c) 조금만 생각을 하면、그 시도가 얼마나 위험한지를 알겠지요.
- (9) a) A little *reflection* will show you what a stupid answer that is.  
 b) ちょっと考えてみれば、それがなんと馬鹿な答えかわかるだろう。  
 c) 조금만 생각해 보면、그것이 얼마나 바보같은 대답인지 알겠지요.
- (10) a) The *birth* of a child will brighten the life of a young married couple.  
 b)赤ちゃんが生まれれば、若い夫婦の生活が明るくなるでしょう。  
 c) 아기가 태어나면、젊은 부부의 생활이 밝아지겠지요.
- (11) a) A *visit* to the zoo will acquaint you with many kinds of animals.  
 b) 動物園に行くと、いろんな種類の動物のことがわかるでしょう。  
 c) 동물원에 가면 여러가지 종류의 동물에 대해서 알겠지요.
- (12) a) Her *smile* disarmed him of his resolution.  
 b) 그녀에にっこりされて、彼の決心も鈍った。  
 c) 그녀가 방긋 웃어서 그의 결심이 흔들렸다.

- (13) a) *A refusal to compromise kept him out of office.*  
 b) 妥協を拒否したので職に就けなかった。  
 c) 타협을 거부했기 때문에 취직을 못했다.
- (14) a) *The simplicity of the book makes it suitable for children.*  
 b) その本は易しいから子供向けだ。  
 c) 그 책은 쉬우니까 어린이용이다.
- (15) a) *A glance told me that something was wrong with him.*  
 b) 一目見て彼はどこか普通でないことがわかった。  
 c) 단번에 그가 뭔가 이상하다는 것을 알았다.
- (16) a) *His height makes him stand out in a crowd.*  
 b) 彼は背が高いので人込みの中で目立つ。  
 c) 그는 키가 커서 사람이 많은 곳에서 눈에 띈다.
- (17) a) *His inability to speak English puts him at a disadvantage when he attends international conferences.*  
 b) 英語が話せないため国際会議に出席すると不利になる。  
 c) 영어를 못해서 국제회의에 출석하면 불리하다.
- (18) a) *The apparent lack of humor in political or ceremonial speeches delivered by Japanese leaders may be a trace of Confucian influence.*  
 b) 日本の指導者達による政治的あるいは公的なスピーチにユーモアが欠けているように見えるのは儒教の影響の痕跡であるかもしれない。  
 c) 일본의 지도자들이 정치적 또는 공적인 연설에서 유머가 결여된 것처럼 보이는 것은 유교의 영향의 흔적일지도 모른다.

このような構文の英語文を自然な日本語文あるいは韓国語文に翻訳するには、上の(b)や(c)に示したように、主語の派生名詞を元の動詞や形容詞あるいは意味的に関連する動詞や形容詞に還元して従属節形式にすればよい。

このような無生物主語構文は、単に英語と日本語あるいは英語と韓国語の間の翻訳技術上の問題に留まらず、これらの言語の構文・発想上の重要な特性を内包していると思われる。どの言語においても、文構成の骨格となる要素は体言(名詞)と用言(動詞・形容詞)である。そして、体言を限定し意味内容を豊富にする要素として形容詞を中心とする連体修飾語句があり、用言には副詞を中心

とする連用修飾語句がある。品詞の形態的な区別があるかないか、あるいはそれをどのように区別するかはともかくとして、以上のような要素を欠く言語はないであろう。どの言語においても、文の意味内容を豊かにする方策として、体言を中心語に据えて連体修飾語句を添加する体言型表現と用言に連用修飾語を添加する用言型表現の2通りがある。しかしながら、体言型表現と用言型表現は同等の比重で用いられるのではなく、言語によって好みに偏りがある。体言型の表現を好む傾向がある言語を体言型言語、用言型の表現を好む言語を用言型言語と呼ぶことにすると、上に挙げたような無生物主語構文とその日本語訳及び韓国語訳の構造の違いは、英語が体言型言語であるのに対して、日本語や韓国語は用言型言語であることを示唆している。

しかしながら、無生物主語構文は非常に英語的な構文であると見なされているけれども、使用頻度はそれほど高くない構文である。したがって、それだけを根拠に英語は体言型言語であり、日本語や韓国語は用言型言語であるとみなすのは大胆すぎるであろう。無生物主語構文以外の根拠を検討してみる必要がある。

#### 4.2 英語を体言型言語とする根拠

英語を体言型の言語であると見なす主な根拠として、無生物主語以外に次のような表現を挙げることができる。

- i) 同族目的語
- ii) 虚語的動詞
- iii) ‘in a great hurry’ タイプの前置詞句
- iv) ‘of importance’ タイプの前置詞句
- v) ‘a good pianist’ タイプの名詞句
- vi) ‘have the fortune to do’ タイプの表現

以下、この各々についてそれがどのように英語が体言型の言語であることを示す根拠になるか、そして、その日本語訳と韓国語訳の考察を通じてそれらがまた日韓両語が用言型言語であることを示す根拠になるかを検討する。

#### 4.2.1 同族目的語

英語には、本来1語の動詞(主として自動詞)によって表わされる意味を表現するのに、その動詞と同形あるいは同語源の名詞または関連語を目的語に据えるという形式を用いる場合がある。このような目的語を同族目的語 (Cognate Object)と呼んでいる。典型的な例は次のようなものである。

- (19) a) He slept peacefully.  
 b) He slept a peaceful sleep.  
 c) 彼はぐっすりと眠った。  
 d) 그는 푹 잤다.

英語の動詞 ‘sleep’ は本来目的語をとらない自動詞である。「安らかに眠る」のように眠りの様態や様子などを描写する場合には、(19a)のように様態副詞 ‘peacefully’ (安らかに)などの連用修飾語句を用いて用言型の表現にすることが基本的な表現形式である。しかしながら、この場合、(19b)のように動詞 ‘sleep’ と同形の名詞 ‘sleep’ (眠り)を目的語にして形式的には他動詞構文にすることが可能である。これが同族目的語の構文である。動詞 ‘sleep’ の意味や機能を考えれば、このような同族目的語構文は本来用言型であるべき表現を体言型でわざわざ表現しようとする英語的な表現形式である。日本語や韓国語で(19a)と同じ意味を表現するには、(19c, d)のように用言型の表現を用いるしかない。韓国語には後述のように同族目的語構文に似た表現があるけれども、この場合は用言型表現が適当である。

同族目的語は、機能的に見れば動作の様態を描写するための方策の1つであ

るから、(19b)のように何らかの連体修飾語句を伴うのが普通である。連体修飾語句を伴わない ‘sleep a sleep’ のような例もないわけではないが極めて稀である。

同族目的語の他の例としては次のようなものがある。

- (20) a) **sleep a dreamless sleep (= sleep dreamlessly)**  
 (日) 夢も見ないでぐっすり眠る  
 (韓) 꿈도 꾸지 않고 푹 자다 (夢も見ないでぐっすり眠る)
- b) **die a natural death (= die naturally)**  
 (日) 天寿を全うする  
 (韓) 천명을 다하다 (天命を全うする)
- c) **die a miserable death (= die miserably)**  
 (日) 惨めな死に方をする  
 (韓) 비참하게 죽다 (惨めに死ぬ)
- d) **live a happy life (= live happily)**  
 (日) 幸せに暮らす  
 (韓) 행복하게 살다 (幸せに暮らす)
- e) **smile a sweet smile (= smile sweetly)**  
 (日) にっこりと微笑む  
 (韓) 방긋 웃다 (にっこりと微笑む)
- f) **laugh a merry laughter (= laugh merrily)**  
 (日) 楽しそうに笑う  
 (韓) 즐겁게 웃다 (楽しそうに笑う)
- g) **laugh a bitter laugh**  
 (日) 苦笑いをする  
 (韓) 쓴 웃음을 짓다 (苦い笑いを浮かべる)
- h) **sigh a deep sigh (= sigh deeply)**  
 (日) 深くため息をつく  
 (韓) 한숨을 푹 쉬다 (ため息を深くつく)
- i) **breathe a deep breath (= breathe deeply)**  
 (日) 深呼吸をする  
 (韓) 심호흡을 하다 (深呼吸をする)
- j) **fight a hard fight (= fight hard)**  
 (日) 激しく戦う  
 (韓) 심하게 싸우다 (激しく戦う)

## k) dream a dreadful dream

(日) 恐ろしい夢を見る

(韓) 무서운 꿈을 꾸다 (恐ろしい夢を見る)

括弧内に示したように、これらの同族目的語構文は、概ね、様態副詞を用いて用言型表現でも表わせる。ただし、(20g)は‘laugh bitterly’としたのでは「ひどく笑う」の意味になってしまって意味が異なるから、他の副詞、例えば‘grimly’を用いて‘laugh grimly’のようにする必要がある。また、(20k)は夢を見るという行為の様態を表わしたのではなく夢の内容を描写するものであるから、様態副詞の‘dreadfully’を使うことはできない。同族目的語構文を使うか次節に述べる虚語的動詞の‘have’を用いて‘have a dreadful dream’のように表現するしかない。このように同族目的語構文には、単に用言型表現を体言型に写しただけのものではないことを示唆する独自のな特徴がある。しかしながら、基本的には用言型の表現で表わせる意味を体言型表現で表わそうとする傾向の下で発達した表現形式であるとみなすことができる。

一方、英語の同族目的語構文に対する日本語や韓国語の翻訳文を見ると、若干の例外はあるけれども、概ね、動詞と連用修飾語句の組み合わせによる用言型表現を用いている。(20b)の日本語訳「天寿を全うする」と韓国語訳「천명을 다하다」/ch’ônmyôngûl tahada/(天命を全うする)は形式的には体言型表現であるけれども、これは「死ぬ」や「죽다」/chukta/(死ぬ)とは全く異なる単語による表現であり、用言型表現を体言型に置き換えたものではない。「死ぬ」と「죽다」を修飾する副詞として英語の‘naturally’に相当するものがないというだけのことである。<sup>3</sup> 同様のことは(20c)の「惨めな死に方をする」や(20g)の「苦笑いをする」と「쓴 웃음을 짓다」/ssûn usûmûl chitta/(苦い笑いを浮かべる)についても

<sup>3</sup> 「\*自然に死ぬ」や「\*자연스럽게 죽다」/chayônsûrôpke chukta/(自然に死ぬ)としたのでは不自然な表現である。



言える。<sup>4</sup> (20i)の「深呼吸をする」と「심호흡을 하다」/shimhohûbûl hada/(深呼吸をする)は副詞的な意味を含んだ漢語名詞の「深呼吸」や「심호흡」/shimhohûp/(深呼吸)を用いて翻訳したものであるが、この場合には「深く息をする」や「깊게 숨을 쉬다」/kipke sumûl shwida/(深く息をする)のように副詞の「深く」や「깊게」/kipke/(深く)を用いた用言型表現も可能である。(20k)の「夢を見る」については元々他動詞構文であり、目的語である「夢」の内容を規定するのに連体修飾語句が用いられるのは当然のことである。したがって、用言型表現が体言型表現に転換されたものではない。

ただし、(20k)の韓国語文「무서운 꿈을 꾸다」/musôun kkumûl kkuda/(恐ろしい夢を見る)については説明の必要がある。というのは、この表現中の「꿈」(夢)は動詞「꾸다」(夢見る)から派生した名詞形であり、一見英語の同族目的語のように見えるからである。そして、上に挙げた「숨을 쉬다」/sumûl shwida/(息をする)の「숨」/sum/(息)もおそらく動詞「쉬다」/shwida/からの派生名詞であると考えられる。これらを含めて、韓国語で同族目的語のように見える表現を挙げてみると次のようになる。

- |         |         |        |
|---------|---------|--------|
| (21) a) | 꿈을 꾸다   | 夢を見る   |
| b)      | 숨을 쉬다   | 息をする   |
| c)      | 춤을 추다   | 踊る     |
| d)      | 잠을 자다   | 眠る     |
| e)      | 금을 긋다   | 線を引く   |
| f)      | 짐을 지다   | 荷物を背負う |
| g)      | 그림을 그리다 | 絵を描く   |

このうち(21a~d)の表現は目的格助詞の「을」/ûl/(を)を省略して、「꿈꾸다」/kkum-kkuda/、「숨쉬다」/sum-shwida/、「춤추다」/ch'um-ch'da/、「잠자다」

<sup>4</sup> 「\*慘めに死ぬ」、「\*苦く笑う」、「\*쓰게 웃다」/ssûge utta/は不自然な表現である。

/cham-jada/のように1語のように用いられることが多い。

(21)の表現は形式的に見る限り韓国版同族目的語と呼べなくもないが、機能的側面から見ると英語の同族目的語とは相当に性質が異なるものである。まず、(21a)の「꾸다」/kkuda/と(21b)の「쉬다」/shwida/は文法的には他動詞であるけれども、目的語になり得る名詞は「꿈」/kkum/と「숨」/sum/に限られている。<sup>5</sup>つまり、「꾸다」と「쉬다」は決して単独では用いられず、「꿈」や「숨」との組み合わせでしか使われない動詞である。つまり「꿈을 꾸다」や「숨을 쉬다」全体で英語の‘dream’や‘breathe’に相当する1つの概念を表わしているものである。意味の中心は目的格名詞の「꿈」や「숨」にあり、動詞の「꾸다」や「쉬다」は言わばこれを用言化するために虚語的に用いられる動詞であると見なすこともできる。英語の同族目的語をとる動詞が単独でも用いられることと比較すると、大きく性格が異なる。さらに、「꿈을 꾸다」はこのままの形では他に目的語を取ることとはできないが、縮約されて「꿈꾸다」となると、次のように他の目的語を取ることができる。これも「꿈」と「꾸다」とが分かちがたく融合していることを示すものである。

- (22) a) \*밝은 미래를 꿈을 꾸다  
 b) 밝은 미래를 꿈꾸다                    明るい未来を夢見る

(21c)の「추다」/ch'uda/(踊る)は次のように「춤」/ch'um/(踊り)以外にもダンスの種類を表わす語を目的語に取ることができる。

- (23) a) 탱고를 추다                    タンゴを踊る  
 b) 디스코 댄스를 추다            ディスコダンスを踊る

したがって、「추다」/ch'uda/(踊る)は純然たる他動詞であり、踊りの種類を特

<sup>5</sup> ただし、「길몽」/kilmong/(吉夢)、「한숨」/han-sum/(ため息)などのような類義語や複合語も目的語になる。

定しないで単に「踊る」という意味を表現する場合には同族の名詞‘춤’を目的語に取ることに過ぎない。

(21e, f, g)の動詞も「추다」の場合と同様、同族名詞以外の目的語を取ることができる他動詞である。

- |         |          |             |
|---------|----------|-------------|
| (24) a) | 선을 긋다    | 線を引く        |
| b)      | 경계를 긋다   | 境界を区切る      |
| c)      | 성호를 긋다   | 十字を切る       |
| (25) a) | 배낭을 지다   | リュックサックを背負う |
| b)      | 책임을 지다   | 責任を負う       |
| c)      | 빚을 지다    | 借金を負う       |
| (26) a) | 지도를 그리다  | 地図を描く       |
| b)      | 초상화를 그리다 | 肖像画を描く      |
| c)      | 꽃을 그리다   | 花を描く        |

(21g)の「그림」/kûrim/ (絵)と「그리다」/kûrida/ (描く)が同語源であることは韓国語話者の多くが意識しているけれども、(21e)の「금」/kûm/ (線)と「긋다」/kûtta/ (引く)、あるいは(21f)の「짐」/chim/ (荷物)と「지다」/chida/ (負う)が同族関係にあることは、言語学に特に関心を持つ人でない限りほとんど意識していない。仮に「그림」/kûrim/と「그리다」/kûrida/のように語源が同じであることを知ったとしても、それはたまたま同語源の名詞が目的語になっているだけで、(24)～(26)のような場合と同じ普通の他動詞構文であるとしか意識しないと思われる。

残る(21d)の「자다」/chada/ (寝る)は、(20a)の「푹 자다」/p'uk chada/ (ぐっすり眠る)のように自動詞としても用いられるし、同族の目的語「잠」/cham/ (眠り)を取って他動詞構文にも用いられる。したがって、「잠을 자다」/chamûl chada/ の場合が英語の同族目的語に最も似ている。しかし、この場合でも機能的に見ると英語の同族目的語とはかなり異なる。英語の同族目的語が連用修飾による用言型表現を連体修飾による体言型表現に置き換える方策の1つとして発達し

た表現であるのに対して、韓国語の「잠(을) 자다」はそれとは全く別な理由で生じたからである。英語の同族目的語は(19)や(20)の例のように連体修飾語句を伴うのが普通である。韓国語の「잠을 자다」も次のように連体修飾語句を伴うことがある。

- (27) a) 깊은 잠을 자다                   (直訳) 深い眠りを眠る  
       b) 편한 잠을 자다                   (直訳) 安らかな眠りを眠る

これは構造的に英語の ‘sleep a deep sleep’ や ‘sleep a peaceful sleep’ と並行的な表現である。しかしながら、この場合連体修飾だけが可能であるわけではない。次のように副詞の「깊이」/kip'i/(深く)や「편히」/p'yôhni/(安らかに)による連用修飾も可能である。

- (28) a) 깊이 잠(을) 자다               深く眠る  
       b) 편히 잠(을) 자다               安らかに眠る

(27)と(28)を比較すると、どちらかといえば(27)の方が自然な感じがするけれども、(28)もまったく問題のない表現である。「잠자다」/chamjada/のように縮約されると連用修飾だけが可能であることから判断すると、むしろ(28)の方が本来の修飾様式であると思われる。同族目的語構文においても連用修飾がなされることは、英語の同族目的語構文が動詞句の置き換え形式であるのに対して、韓国語の場合には動詞の置き換えであることを意味している。

ここで興味深いのは、「잘」/chal/(よく)や「꼭」/p'uk/(ぐっすり)のような1音節の副詞が「자다」/chada/を修飾する場合である。

- (29) a) 잘/꼭 자다                       よく/ぐっすり眠る  
       b) \*잘/꼭 잠자다  
       c) 잠을 잘/꼭 자다  
       d) ?잘/꼭 잠을 자다

「잘」/chal/や「꼭」/p'uk/は(29a)のように単独用法の「자다」/chada/とも、あるいは(29c)のように「잠을 자다」/chamûl chada/とも用いられる。ただし、(29d)のような位置に「잘」や「꼭」を置くと多少不自然な感じがする。ところが(29b)のように「잘」や「꼭」を縮約形の「잠자다」/chamjada/と共に用いると非常に不自然である。これらの事実は、「잠(을) 자다」の同族目的語が口調上の理由で生じたものであることを強く示唆している。つまり、単音節母音語幹の「자다」の「軽さ」を補うために、「꿈(을) 꾸다」/kkum(ûl) kkuda/、「숨(을) 쉬다」/sum(ûl) shwida/、「춤(을) 추다」/ch'um(ûl) ch'uda/などと並行的に同族の名詞「잠/cham/」を目的語とする表現が生じたのではないかと考えられる。韓国語話者にとって「자다」だけでは何となく物足りなく感じられる。そこで、意味的には何ら貢献しない同族の名詞形「잠」を形式的な目的語として付けて「잠을 자다」としたり、それをさらに縮約して「잠자다」/chamjada/としたりすることにより「軽さ」を解消する。「자다」の「軽さ」は「잘」や「꼭」のような1音節の副詞を伴うことによっても解消される。こうした副詞を伴う場合には「잠(을)」/cham(ûl)/を補う必要性がなくなり、(29b)や(29d)が不自然になるのである。(29c)が自然であるのは「잘」や「꼭」が「잠을」と「자다」との間に位置することによって「잠을 자다」の口調上の一体性が破られるためである。

単音節母音語幹「자다」/chada/の「軽さ」を補うために同族名詞「잠」が目的語として用いられている上の議論に対して、それならばどうして、「사다」/sada/(買う)、「타다」/t'ada/(乗る)、「서다」/sôda/(立つ)、「뜨다」/ttûda/(浮かぶ)、「보다」/poda/(見る)など韓国語には単音節母音語幹の動詞が数多くあるのにそれらには同族目的語表現ができなかったのかという反論がなされるかもしれない。一見もっともらしい反論に見えるが、それに答えるのはさほど難しいことではない。その理由は、「잠」とは異なり、上に挙げたような動詞の名詞形は、独立の名詞として用いられることがほとんどないためである。「잠」は辞書の見

出し語にもなっており、(30)のように主語や目的語など文の構成成分として用いられ、あるいは(31)のような複合名詞の構成要素にもなっている。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| (30) a) 잠이 오다 | 眠くなる(直訳：眠りが来る)  |
| b) 잠이 들다      | 寝付く、寝入る         |
| c) 잠이 깨다      | 目覚める(直訳：眠りが覚める) |
| d) 잠을 설치다     | 寝そびれる           |
| e) 잠에서 깨다     | 眠りから覚める         |

- (31) 낮잠(昼寝)    늦잠(寝坊)    신잠(うたた寝)

このように「잠」/cham/は名詞としての地位が確立しているのに対して、「사다」/sada/(買う)、「타다」/t'ada/(乗る)などの名詞形「삼」/sam/、「탐」/t'am/は文の名詞的構成要素として用いられることはほとんどない。このように名詞としてのなじみのないことが「사다」、「타다」などに同族目的語的表現が生まれなかった理由である。<sup>6</sup>

#### 4.2.2 虚語的動詞

同族目的語構文と機能的に類似した形式として、「虚語的動詞構文」とでも呼ぶべき表現形式が英語でよく用いられる。これは、本来1語の動詞で表わせる意味内容を、わざわざその動詞の派生名詞(たいていは動詞と同形)を‘give’、‘have’、‘make’、‘take’などの動詞の目的語に立てることによって表わすものである。この場合、‘give’、‘have’、‘make’、‘take’などの動詞は本来の意味が非常に希薄化するかなくなっており、単に他動詞構文を作るために形式的に用いられているに過ぎない。したがって、これを「虚語的動詞」と呼ぶことにする。典型的な虚語的動詞構文の例は次のようなものである。

<sup>6</sup> 韓国語の同族目的語構文に関しては、李殷娥(1999)にさらに詳しい議論がある。

- (32) a) She gave a brief answer. (= She answered briefly.)  
 (日) 彼は手短に答えた。  
 (韓) 그는 간단히 대답했다. (彼は簡単に答えた。)
- b) I had a long talk with him. (= I talked with him for a long time.)  
 (日) 彼と長い間話をした。  
 (韓) 그와 긴 시간 이야기를 했다. (彼と長い時間話をした。)
- c) The little girl made a polite bow to me. (= The little girl bowed to me politely.)  
 (日) 少女は私に丁寧にお辞儀をした。  
 (韓) 소녀는 나에게 정중히 인사를 했다. (少女は私に丁寧に挨拶をした。)
- d) We took a short rest there. (= We rested there for a while.)  
 (日) そこでしばらく休んだ。  
 (韓) 거기서 잠시 쉬었다. (そこでしばらく休んだ。)

このような虚語的動詞構文の表わす意味は、それぞれ括弧内に示したように 'answer'、'talk'、'bow'、'rest' などの1語の動詞を用いても表わすことができる。したがって、虚語的動詞構文は用言型表現を体言型に置き換えるものである。虚語的動詞構文と単一動詞とは、どちらかと言えば前者の方がより口語的であるという違いはあるけれども、両者の表わす意味はほとんど同じであるとされている。

どの動詞でもこのような虚語的動詞構文に置き換えられるわけではなく、置き換え可能な動詞の範囲は限られている。<sup>7</sup> しかしながら、同族目的語構文の場合に比べれば、はるかに多くの語において置き換えが可能であるから、英語

<sup>7</sup> 置き換え可能な動詞と不可能な動詞との区別は明らかではない。置き換え可能な動詞の大多数は1音節動詞である。しかし、(32a)の 'answer' や以下の例に示すように 'reply'、'progress'、'promise'、'quarrel' など2音節以上の動詞も置き換え可能であるし、逆に、'sit'、'stand'、'lie'、'read' など置き換え可能でない1音節語も多い。また、'drink'、'cry'、'start' は置き換え可能であるのに、'eat'、'weep'、'begin' は置き換え不能であるなど、意味的にも区分の基準ははっきりしない。ただし、『英語基本動詞辞典』(p.648) は 'give' の目的語になり得るものを次のように規定している。

(i) 物理的接触を表す名詞：blow, kick, kiss, knock, pat, pull, punch, push, slap, shove, rub, etc.  
 (ii) 接触による何らかの処置を表す名詞：airing, bath, brushing, clearing, coat of paint, polish, wash, etc.  
 (iii) 心理的接触、表情、身振り、伝達などを表す名詞：call, glance, grin, look, nod, smile, talking-to,

が体言型言語であることをより一層強く示唆する根拠になると言える。以下、類例を挙げることにする。

- |         |                          |           |
|---------|--------------------------|-----------|
| (33) a) | give a good laugh        | 大いに笑う     |
|         | give a loud cough        | 大きく咳をする   |
|         | give a sharp cry         | きやっと叫ぶ    |
|         | give a queer smile       | 奇妙な笑い方をする |
|         | give a great shout       | 大声で叫ぶ     |
| b)      | have a deep sleep        | ぐっすり眠る    |
|         | have a quiet smoke       | 静かに一服する   |
|         | have a good night's rest | 一晩ぐっすり休む  |
|         | have a nice stay         | 楽しく過ごす    |
|         | have a long wait         | 長く待つ      |
| c)      | make slow progress       | ゆっくり前進する  |
|         | make an early start      | 早く出発する    |
|         | make a sharp turn        | 急に曲がる     |
|         | make a brief stop        | 短時間停車する   |
|         | make a solemn promise    | 厳かに約束する   |
| d)      | take a big drop          | 急激に落ち込む   |
|         | take a short nap         | ちよっとまどろむ  |

以上の例ではすべて動作名詞に連体修飾語が付いている。同族目的語構文の場合とは違って虚語的動詞の構文では連体修飾語は必須の要素ではない。次のように、冠詞以外の連体修飾語を伴わない例もよく見られる。

- |         |                       |          |
|---------|-----------------------|----------|
| (34) a) | give a scream         | 叫ぶ       |
|         | give a leap           | ぴよんと跳ぶ   |
|         | give a groan          | うめく      |
|         | give a sigh           | ため息をつく   |
|         | give a yawn           | あくびをする   |
| b)      | have a chat           | おしゃべりする  |
|         | have a jog            | ジョギングをする |
|         | have a dream          | 夢を見る     |
|         | have a quarrel with ~ | ~とけんかをする |

---

wink, etc.



have a rest	一休みする
c) make a pause	一息入れる
make a reply	答える
make a bow	お辞儀をする
make a jump	跳びあがる
make a halt	止まる
d) take a rest	一休みする
take a nap	うたた寝をする
take a shower	シャワーを浴びる
take a sniff	くんくんと嗅ぐ
take a count	数える

(34)のように連体修飾語句を伴わない時は、特に 'have' や 'take' を虚語的動詞とする場合には、単独の動詞が表わす意味よりも多少なりとも意味が特殊化されることが多い。例えば、'have[take] a rest'、'have[take] a swim'、'have[take] a bite' などの表現は日本語の「ひと休みする」、「ひと泳ぎする」、「一口かじる」などと等価な意味を表わすのであって、単独の動詞 'rest' (休む)、'swim' (泳ぐ)、'bite' (かむ、かじる)の表わす意味とはニュアンスが異なる。これは不定冠詞の影響によるものだが、1回、2回と数えられる区切られた動作を表わしている。'have a try' も同様に、単に「試みる」ではなく「一度やってみる」の意味である。'have[take] a walk' はさらに特殊化が進んでいる。「ひと歩きする」と言ってもいいが、単に移動のために歩くのではなく、気晴らしの運動として歩くこと、つまり「散歩をする」という意味になる。また、'have[take] a drink' は単に飲み物を飲むことではなく、普通はアルコール類を飲むことを意味し、日本語の「一杯やる」や韓国語の「한 잔 하다」/han jan hada/(一杯やる)に当たる表現である。これと同様に、'have a wash' は「洗う」という意味でも用いられるが、「手や顔を洗う」という特殊化された意味でも使われる。

これまでに挙げた例は、元の動詞が自動詞あるいは目的語を省略した他動詞の場合であったが、次のように元の動詞が明示された目的語を持つ他動詞の場合

合にも、虚語的動詞の構文が可能である。

- (35) a) give ~ a playful push (= push ~ playfully)  
 (日) 面白がって~を押す  
 give ~ a lick (= lick ~)  
 (日) ~をなめる  
 give the room a good sweep (= sweep the room well)  
 (日) 部屋をよく掃除する  
 give the door a hard kick (= kick the door hard)  
 (日) ドアを強く蹴る
- b) have a quick look at ~ (= look at ~ quickly)  
 (日) ~をざっと見る  
 have a love for ~ (= love ~)  
 (日) ~が好きだ  
 have a firm grasp at ~ (= grasp ~ firmly)  
 (日) ~をしっかりつかむ
- c) make good use of ~ (= use ~ well)  
 (日) ~をうまく利用する  
 make mention of ~ (= mention ~)  
 (日) ~のことに触れる  
 make a grab at ~ (= grab ~)  
 (日) ~をつかむ
- d) take a close look at ~ (= look at ~ closely)  
 (日) ~をじっと見る  
 take a second smell of ~ (= smell ~ again)  
 (日) ~のにおいをもう一度嗅ぐ  
 take a glance at ~ (= glance at ~)  
 (日) ~をちらっと見る  
 take a guess at ~ (= guess ~)  
 (日) ~を推量する

最後に、派生動作名詞が元の動詞とは形が異なる場合の例をいくつか挙げておこう。

- (36) a) give a good description of ~ (= describe ~ well)  
 (日) ~をうまく描写する  
 give a summary of ~ (= summarize ~)

- (日) ～を要約する  
 give birth to her second son (= bear her second son)  
 (日) 2人目の男の子を産む
- b) have an argument (= argue)  
 (日) 議論をする  
 have a bath (= bathe)  
 (日) 入浴する
- c) make a speech (= speak)  
 (日) 演説をする  
 make a special study of ~ (= study ~ specially)  
 (日) ～を専門的に研究する  
 make a survey of ~ (= survey ~)  
 (日) ～を調査する  
 make an apology for ~ (= apologize)  
 (日) ～を謝罪する  
 make a hasty judgement (= judge hastily)  
 (日) 早まって判断する
- d) take a bath (= bathe)  
 (日) 入浴する  
 take a deep breath (= breathe deeply)  
 (日) 深呼吸をする

虚語的動詞と言えれば日本語では「スル」、韓国語では「하다」/hada/(する)という動詞を虚語的に用いた形式、つまり「スル動詞」と「하다動詞」が数多く存在する。(33)～(36)の英語例の日本語訳にも「スル動詞」がいくつか含まれていた。韓国語訳と共に示すと次のようなものである。<sup>8</sup>

(37) 出発(を)する	출발(을) 하다
約束(を)する	약속(을) 하다
停車(を)する	정차(를) 하다
掃除(を)する	청소(를) 하다
記述(を)する	기술(을) 하다
要約(を)する	요약(을) 하다

<sup>8</sup> (37)の韓国語「하다動詞」の語幹部分の漢語要素は大体日本語の要素を韓国語読みしたものである。ただし、청소と약속はそれぞれ「清掃」、「沐浴」の韓国語読みである。

議論(を)する	의논(을) 하다
入浴(を)する	목욕(을) 하다
演説(を)する	연설(을) 하다
研究(を)する	연구(를) 하다
判断(を)する	판단(을) 하다
深呼吸(を)する	심호흡(을) 하다

このような「スル動詞」や「하다動詞」は、上に論じた英語の虚語的動詞の構文よりもはるかに数が多い。したがって、英語の虚語的動詞構文を英語が体言型言語である証拠にするのならば、日本語や韓国語は「スル動詞」や「하다動詞」の存在によってより一層体言型であるということになるのではないか、という議論がなされるかもしれない。しかしながら、この議論は全く的外れである。なぜならば、(37)のような「スル動詞」や「하다動詞」と英語の虚語的動詞構文とは起源において全く性質が異なるからである。英語の虚語的動詞構文は、元来1語の動詞が表わす意味を、その動詞を名詞化しそれを虚語的動詞の目的語とすることによって迂言的に表現しようとするものである。そこには体言化(名詞化)という過程が含まれている。これに対して、日本語の「スル動詞」や韓国語の「하다動詞」には、この体言化の過程がない。(37)の表現は漢語を語幹とするものであるが、中国語は孤立語で語形変化がないため、膠着語で用言が活用する日本語や韓国語に動作性の漢語表現を借入するとき、動作性を表わす最も一般的な動詞である「スル」と「하다」を活用する要素として付けたものである。言わば、活用しない動詞を活用する動詞に置き換えたに過ぎない。「～をする」あるいは「～을/를 하다」/úl·rúl hada/のように目的格助詞を伴う表現も可能なことから考えると、動作性漢語要素は動作名詞としてとらえられていたとも考えられる。しかしながら、その体言化は日本語や韓国語の中で生じたことではない。活用のない中国語においてはある表現が動詞であるのか名詞であるのかは文脈なしには判断できない。一方、用言が活用する日本語や韓国語では活用のない表現を用言とはとらえにくい。したがって、動作性漢語要素は借用の時点ですでに

動作名詞として意識されていたと考えられる。だとすれば、「スル動詞」や「하다動詞」はむしろ体言の用言化とみなすべきであり、日本語や韓国語が用言型言語であることと矛盾するものではない。

「スル動詞」や「하다動詞」が英語の虚語的動詞構文と性格が異なることは、連体修飾語句と連用修飾語句の分布の違いからも容易に理解できよう。英語の虚語的動詞構文では(32)、(33)、(35)、(36)の例のように連体修飾しか許されないが、「スル動詞」や「하다動詞」では連用修飾が基本である。目的格助詞を省いた表現では連体修飾は全く不可能である。目的格助詞を付けた表現では、連体修飾も可能であるけれども、次のように場合によって許容度に差がある。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| (38) a) 早く出発をする | 일찍 출발을 하다    |
| b) 早く出発する       | 일찍 출발하다      |
| c) ?早い出発をする     | ?이른 출발을 하다   |
| d) *早い出発する      | *이른 출발하다     |
| a) 固く約束をする      | 굳게 약속을 하다    |
| b) 固く約束する       | 굳게 약속하다      |
| c) 固い約束をする      | 굳은 약속을 하다    |
| d) *固い約束する      | *굳은 약속하다     |
| a) きれいに掃除をする    | 깨끗이 청소를 하다   |
| b) きれいに掃除する     | 깨끗이 청소하다     |
| c) *きれいな掃除をする   | *깨끗한 청소를 하다  |
| d) *きれいな掃除する    | *깨끗한 청소하다    |
| a) 詳しく記述をする     | 자세히 기술을 하다   |
| b) 詳しく記述する      | 자세히 기술하다     |
| c) 詳しい記述をする     | 자세한 기술을 하다   |
| d) *詳しい記述する     | *자세한 기술하다    |
| a) 簡単に要約をする     | 간단히 요약을 하다   |
| b) 簡単に要約する      | 간단히 요약하다     |
| c) 簡単な要約をする     | 간단한 요약을 하다   |
| d) *簡単な要約する     | *간단한 요약하다    |
| a) 専門的に研究をする    | 전문적으로 연구를 하다 |
| b) 専門的に研究する     | 전문적으로 연구하다   |
| c) 専門的な研究をする    | 전문적인 연구를 하다  |
| d) *専門的な研究する    | *전문적인 연구하다   |

英語の虚語的動詞構文の対応物を求めるならば、用言の名詞化の過程を伴わない漢語語幹の「スル動詞」や「하다動詞」ではなく、固有語動詞の名詞形を語幹とするものでなければならない。まず、日本語の方から見るとこの条件を満たす表現としては次のようなものがある。

- (39) a) 話をする < 話す  
 b) まねをする < まねる  
 c) 囲いをする < 囲う  
 d) 渡りをする < (鳥が)渡る

次のような例では適当な連体修飾語を義務的に伴う。

- (40) a) 怪しい動きをする  
 b) 目覚しい働きをする  
 c) いい走りをする

(39)、(40)のような例は、成り立ちから見ると英語の虚語的動詞の構文と完全に並行する表現のように見える。しかしながら、機能を詳細に検討すると似て非なるものであることがわかる。まず、虚語的動詞の構文の場合とは違って、(39)の表現には次のように連用修飾も連体修飾も可能である。

- (41) a) 面白く話をする (=面白く話す)  
 b) 上手にまねをする (=上手にまねる)  
 c) 入念に囲いをする (=入念に囲う)  
 d) 勢いよく渡りをする (=勢いよく渡る)
- (42) a) 面白い話をする  
 b) 上手なまねをする  
 c) 入念な囲いをする  
 d) 勢いのいい渡りをする

(41)と(42)の表現は意味は同じであると思われるが、表現の自然さという点では多少違いがあるようである。(a)の「話をする」の場合では連用修飾も連体修飾も共に自然であるけれども、(b)~(d)の例では連用修飾の方がどちらかと言

えば自然であるというのが日本語話者の判断であった。

一方、(40)の連体修飾語を連用修飾語に替えることはできない。<sup>9</sup>

- (43) a) \*怪しく動きをする  
 b) \*目覚しく働きをする  
 c) \*よく走りをする

さらに、次のように連体修飾語と連用修飾語を同時にもつことも可能である。

- (44) a) つまらない話を面白くする  
 b) 懸命に下手なまねをする  
 c) 急いで粗末な囲いをする

英語の虚語的動詞の構文では連体修飾しか許されないことと照らし合わせると、以上のような連体修飾語と連用修飾語の分布は、(39)、(40)のような表現が英語の虚語的動詞構文とは大いに性質の異なるものであることを強く示唆している。

次に、英語の虚語的動詞構文に置き換え得る動詞が非常に多いのに対して、日本語の(39)、(40)のような表現はかなり制約されている。単一語幹の動詞でこの形式を取り得るものは、(39)、(40)に挙げたもののほかに若干あるだけで、「遊び」、「泣き」、「笑い」、「乗り」、「歩き」などはこのままの形では動詞「スル」の目的語にはならない。ところが、次のようにこれらの語に名詞や接頭辞がついて複合語になると可能である。

- (45) a) 川遊びをする、火遊びをする、トランプ遊びをする、水遊びをする  
 b) うそ泣きをする、もらい泣きをする、夜泣きをする、うれし泣きをする  
 c) 苦笑いをする、大笑いをする、ばか笑いをする、含み笑いをする  
 d) 相乗りをする、ただ乗りをする、二人乗りをする、波乗りをする  
 e) 山歩きをする、そぞろ歩きをする、一人歩きをする、よちよち歩きをする

<sup>9</sup> 元の動詞に戻せばもちろん「怪しく動く」、「目覚しく働く」、「よく走る」のように連用修飾が可能であるけれども、(40)の表現とは多少意味が異なるようである。

ただし、このような複合語の場合「\*川遊ぶ」、「\*うそ泣く」、「\*苦笑う」、「\*相乗る」、「\*山歩く」のような言い方はできない。

さらに、派生名詞に次のように丁寧の接頭辞「お」がつく場合や、複合動詞からの派生名詞の場合には問題の構文が可能になる場合が多い。

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| (46) a) お返しをする(=返す) | お祈りをする(=祈る)     |
| お騒がせをする(=騒がせる)      | おまかせをする(=まかせる)  |
| お招きをする(=招く)         | お尋ねする(=尋ねる)     |
| おことわりをする(=ことわる)     | おめかしをする(=めかす)   |
| お出かけをする(=出かける)      | おこもりをする(=こもる)   |
| b) 着替えをする(=着替える)    | 取り決めをする(=取り決める) |
| 問い合わせをする(=問い合わせる)   | 申し込みをする(=申し込む)  |
| 買い付けをする(=買い付ける)     | 聞き違いをする(=聞き違える) |
| 追い越しをする(=追い越す)      | 書き取りをする(=書き取る)  |
| 撮り直しをする(=撮り直す)      | 巻き戻しをする(=巻き戻す)  |

以上のような事実は、問題の構文の動詞「する」は虚語的動詞ではなく「仕事をする」、「留守番をする」、「かくれんぼをする」などの場合と同様に本動詞であると考えれば自然に解釈できる。つまり、「映画を見る」、「ご飯を食べる」などと同じ単なる他動詞構文であると考えるのである。単なる他動詞構文であれば、必要に応じて動詞には連用修飾語が、目的語の名詞には連体修飾語が付くのは当然のことである。(44)のような表現は、「つらい仕事を黙々とする」、「つまらない映画をしぶしぶ見る」と同じ構造をしていると考えられる。本動詞「する」の目的語には、一般的な動作を表わす語ではなく、ある程度具体化・特定化された動作を表わす語が要求されるという意味的な制約があると思われる。そのために、「泣き」、「笑い」、「乗り」のような一般的な動作名詞は目的語になりにくく、上に述べたような制約があるのだと解釈できる。

以上をまとめると、日本語の「～をする」の表現は、英語の虚語的動詞構文のような用言型表現の体言型表現への移し替えという性格は持っていないと結論



づけられる。

一方、韓国語の場合、固有語を語根とする「하다動詞」で単純動詞と交替するものは、日本語の場合よりもさらに少ない。

- (47) a) 싸움(을) 하다 (けんかをする) < 싸우다 (争う)  
 b) 달리기를 하다 (かけっこをする) < 달리다 (走る)  
 c) 빨래(를) 하다 (洗濯をする) < 빨다 (洗濯する)

(47a)は「함/ham/名詞形」を、(47b)は「하기/hagi/名詞形」<sup>10</sup>を語根としているが、後者の場合、動詞の意味は単に「走る」ことではなく、「かけっこをする、駆け比べをする」意味であり、意味の特殊化を生じている。(47c)の「빨래」/ppallæ/(洗濯)は動詞「빨다」/ppalda/(洗濯する)からの派生名詞形であるが、この派生様式は一般的ではない。

このように単純動詞の名詞形を「하다動詞」の語根としたり動詞「하다」の目的語としたりすることは極めてまれであるが、日本語の場合と同様、動詞からの派生名詞を含む複合名詞を用いる例はかなりある。

- (48) a) 제자리걸음(을) 하다 (足踏みをする)  
 말다툼(을) 하다 (口喧嘩をする)  
 b) 글짓기(를) 하다 (作文をする)  
 모내기(를) 하다 (田植えをする)  
 널뛰기(를) 하다 (板跳びをする)  
 공차기(를) 하다 (ボール蹴りをする)  
 술래잡기(를) 하다 (かくれんぼをする)

このような例を見ると、日本語の「～をする」の場合と同様に、意味的に名詞としての独立性、具体性が高い要素しか「～(을/를) 하다」の表現には用いられず、

<sup>10</sup> 韓国語で用言から派生される生産的な派生名詞には「싸우다」/ssau-da/(争う)>「싸움」/ssau-m/(喧嘩)、「믿다」/mit-ta/(信じる)>「믿음」/mid-ûm/(信念、信頼)のように用言の語幹に「ㅁ」/m/あるいは「음」/ûm/を付ける「함/ham/名詞形」と、「달리다」/talli-da/(走る)>「달리기」/talli-gi/(走り)、「읽다」/ik-ta/(読む)>「읽기」/il-ki/(読み)のように用言の語幹に「기」/ki/を付ける「하기/hagi/名詞形」とがある。どちらかといえば前者の方が名詞的な性格が強い。

このような表現は単純に「目的語+動詞」の構文であるとみなすべきものである。つまり、(47)のような例は、次のような表現と何ら変わりがないと考えられる。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| (49) 일(을) 하다 (仕事をする) | 이야기(를) 하다 (話をする、話す) |
| 말(을) 하다 (言う)         | 밥(을) 하다 (ご飯を炊く)     |
| 노래(를) 하다 (歌を歌う)      | 걱정(을) 하다 (心配(を)する)  |
| 사랑(을) 하다 (愛する)       | 장사(를) 하다 (商売をする)    |

したがって、韓国語の「～(을/를) 하다」の表現も、用言型表現の体言型表現への移し替えという性格は持っていないと結論できる。

#### 4.2.3 ‘in a great hurry’ タイプの前置詞句

連用修飾は副詞によって行なわれるのが基本であるが、言語によっては副詞以外の連用修飾形式を発達させている場合がある。英語では、前置詞句も連用修飾機能を担う重要な表現形式として用いられる。連用修飾用法(副詞的用法)の前置詞句には、‘in the morning’ (朝に)や‘on the street’ (通りで)のように時や場所を表す場合、‘for the nation’ (国のために)、‘by the people’ (人々によって)のように格関係を表す場合など様々な機能があるが、ここで問題にするのは次のような例である。

- (50) a) He spoke *in a great hurry* (= very hurriedly).  
 (日) 大急ぎで話した。  
 (韓) 서둘러 이야기했다.
- b) The girl spoke English *with great fluency* (= very fluently).  
 (日) 英語を極めて流暢に話した。  
 (韓) 영어를 대단히 유창하게 했다.
- c) He was sitting *in utter idleness* (= utterly idly).  
 (日) 全く何もしないで座っていた。  
 (韓) 아무것도 하지 않고 앉아 있었다.
- d) I have been waiting for the result *with anxiety* (= anxiously).  
 (日) 私ははらはらしながら結果を待ちました。  
 (韓) 나는 두근거리며 결과를 기다리고 있었습니다.

- e) *By a good fortune* (= Fortunately) I could see him.  
 (日) 幸運にも彼に会うことができた。  
 (韓) 행복하게도 그를 만날 수 있었다.
- f) He will come *without doubt* (= doubtlessly).  
 (日) 彼はきっと来る。  
 (韓) 그는 반드시 온다.
- g) This is *beyond all dispute* (= indisputably) the best book on the subject.  
 (日) これは文句なしにその問題に関する最善の本だ。  
 (韓) 이것은 문제없이 그 문제에 관한 최선의 책이다.

これらの前置詞句は、いずれも括弧内に示したように副詞によって同じ意味が表現できるものである。場合に応じて(50a, b, c, e, g)のように連体修飾語を伴うこともある。前置詞句は意味上名詞を中心とする構造であるから、明らかに体言型表現の1種である。英語では、このように、副詞で表わし得る意味を体言型表現である前置詞句で表わすことが多い。副詞で表現する方が簡潔なように思われるのに迂言的な前置詞句が好んで用いられる。類例を挙げると次のようなものがある。

(51) a) in abundance	(= abundantly)	豊富に
in actuality	(= actually)	實際上
in anger	(= angrily)	怒って
in appearance	(= apparently)	見たところ
in astonishment	(= *astonishedly)	びっくりして
in bewilderment	(= *bewilderedly)	当惑して
in consequence	(= consequently)	したがって
in detail	(= *detailedly)	詳細に
in despair	(= desperately)	絶望して
in error	(= erringly)	間違って
in essence	(= essentially)	本来は
in excitement	(= excitedly)	興奮して
in (actual) fact	(= factually)	実際は、事実上は
in good faith	(= faithfully)	誠実に
in bad faith	(= unfaithfully)	不誠実に
in a fury	(= furiously)	かっとなって
in high glee	(= very gleefully)	すごく愉快地

in harmony	(= harmoniously)	調和して
in happiness	(= happily)	幸福に
in haste	(= hastily)	急いで
in safety	(= safely)	無事に
in silence	(= silently)	静かに、黙って
in peace	(= peacefully)	平和に
in secret	(= secretly)	秘密に、内緒で
in security	(= securely)	安全に、確実に
in surprise	(= *surprisedly)	安全に、確実に
in tears	(= tearfully)	涙を浮かべて
b)		
with care	(= carefully)	注意して、注意深く
with caution	(= cautiously)	用心して、慎重に
with conviction	(= *convincedly)	自信を持って
with courage	(= courageously)	勇気を持って、勇敢に
with cruelty	(= cruelly)	残酷に
with deliberation	(= deliberately)	慎重に
with determination	(= determinedly)	断固として
with difficulty	(= *difficultly)	かろうじて
with dignity	(= *dignifiedly)	重々しく
with diligence	(= diligently)	勤勉に
with ease	(= easily)	容易に
with effect	(= effectively)	効果的に
with energy	(= energetically)	元気に、力を込めて
with enthusiasm	(= enthusiastically)	熱中して、熱心に
with expression	(= expressively)	表現豊かに
with fear	(= fearfully)	びくびくして
with (a) good grace	(= gracefully)	快く、いさぎよく
with impatience	(= impatiently)	やきもきして
with indifference	(= indifferently)	無頓着に
with reluctance	(= reluctantly)	渋々、不承不承
with reserve	(= reservedly)	遠慮して
with resignation	(= resignedly)	あきらめて
with great sadness	(= very sadly)	とても悲しそうに
with severity	(= severely)	厳しく
with success	(= successfully)	首尾よく
with suspicion	(= suspiciously)	厳しく
with astonishment	(= *astonishedly)	びっくりして
c)		
without ceremony	(= unceremoniously)	儀式ばらずに、気軽に
without dispute	(= indisputably)	疑いなく
without effort	(= effortlessly)	楽に
without end	(= endlessly)	果てしなく

without formality	(= informally)	儀式ばらずに
without success	(= unsuccessfully)	不首尾に
d) beyond belief	(= unbelievably)	信じられないほど
beyond description	(= indescribably)	言葉では表現できないほど
beyond help	(= helplessly)	どうしようもなく
e) by mistake	(= mistakenly)	間違って
by accident	(= accidentally)	偶然に
by error	(= *erringly)	誤って、間違って
by a bad fortune	(= unfortunately)	不運にも
f) of necessity	(= necessarily)	必然的に
g) to admiration	(= admirably)	見事に、立派に
to an extreme	(= extremely)	極端に
h) on occasion	(= occasionally)	見事に、立派に
on purpose	(= purposely)	極端に
i) for joy	(= joyfully)	喜んで

以上の前置詞句の例は、大体中辞典クラスの英和辞典ならば副見出しとして、あるいは例文を通じて記載されているものであるけれども、対応する副詞のうち※を付けたものは大辞典クラスの辞書にしか記載がない。これは、少なくともこれらの例については前置詞句を用いる方が一般的であることを示している。

次に ‘in a great hurry’ タイプの前置詞句を別な観点から検討する。これまでに挙げた例の日本語訳を見ると、大部分は形容詞あるいは形容動詞の副詞形が用いられているが、かなりの数の例で「～して」、「～せずに」、「～しながら」など動詞の活用形が用いられている。韓国語訳は与えてないが、日本語と大体同じような状況である。いくつかの例に関して『New Ace英韓中辞典』の韓国語訳と上の日本語訳を照らし合わせてみると、次のようになる。

(52) a) in abundance	豊富に	풍부하게
in good faith	誠実に	성실하게
with deliberation	慎重に	신중하게
with dignity	重々しく	위엄있게
with ease	容易に	쉽게

with indifference to admiration	無頓着に 見事に、立派に	무관심하게 훌륭하게
b) in detail in safety with determination with (a) good grace by accident	詳細に 無事に 断固として 快く、いさぎよく 偶然に	상세히 무사히 단호히 쾌히 우연히
c) without dispute without end	疑いなく 果てしなく	논의할 여지 없이 끝없이
d) with effect of necessity	効果的に 必然的に	효과적으로 필연적으로
e) in bewilderment in despair in excitement with caution with anxiety with impatience by mistake in a fury	当惑して 絶望して 興奮して 用心して、慎重に はらはらしながら やきもきして 間違って かっとなって	당황하여 절망하여 흥분하여 조심하여 걱정하여 안달하여 잘못하여 노발대발하여
f) in haste in surprise in anger	急いで 驚いて 怒って	서둘러 놀라서 화가 나서
g) in astonishment in tears	びっくりして 涙を浮かべて	깜짝 놀라며 눈물을 흘리며
h) without ceremony	儀式ばらずに	격식을 차리지 않고
i) beyond belief	信じられないほど	믿을 수 없을 정도로

(52a)~(52d)の日本語訳は形容詞あるいは形容動詞の副詞形であるが、これに対応する韓国語訳も形容詞あるいは存在詞(「있다/itta/」(ある、いる)と「없다」/ôpta/(ない、いない))の副詞形である。韓国語の副詞形は、(52a)のように語尾「-게」/ke/を取るもの、(52b)のように語尾「-히/hi/」を取るもの、(52c)のように語尾「-이/i/」を取るものなど単語によって異なる。(52d)のように接尾辞「-적」

/chôk/(-的)を持つ語の場合の副詞形は「-적으로」/chôgûro/(-的に)となる。<sup>11</sup> 一方、(52e)～(52i)の日本語訳では動詞の活用形が用いられている。このような場合、韓国語でもここに示したように、動詞あるいは形容詞の活用形が使われるのが普通である。(52e)～(52g)の日本語はいわゆる「テ形」(連用形+「テ」)であり、副詞的用法の活用形としては最もよく用いられる形式である。(52h)も「テ形」を用いて「儀式ばらないで」とすることもできる。日本語の「テ形」に対応する韓国語の活用形には、(52e)のような「아/a/어/ô/連用形」と呼ばれる形式、(52g)のような活用語尾「-며」/myô/を付けるもの、(52h)のような活用語尾「-고」/ko/を付けるものなどがあるが、このうち「아/어連用形」の形式が最もよく用いられる。「아/어連用形」の作り方は多様であるが、(52e)のような「하다形容詞」や「하다動詞」の場合には「-하여」/hayô/の形になる。例えば、(52e)の最初の2例の「당황하여」/tanghwanghayô/(あわてて)と「절망하여」/chôlmanghayô/(絶望して)は、それぞれ「하다形容詞」の「당황하다」/tanghwanghada/(あわてている)<sup>12</sup>と「하다動詞」の「절망하다」/chôlmanghada/(絶望する)の「아/어連用形」である。(52f)の最初の例「서둘러」/sôdullô/は、動詞「서두르다」/sôdurûda/(急ぐ)の「아/어連用形」である。副詞的に用いられる「아/어連用形」には口調上の理由で特に意味のない語尾「-서」/sô/が付くことがある。例えば、(52f)の第2例の「놀라서」/nollasô/(驚いて)と第3例の「화가 나서」/hwaga nasô/(腹が立つて)は、それぞれ、動詞の「놀라다」/nollada/(驚く)と慣用句の「화가 나다」/hwaga nada/(腹が立つ)の「아/어連用形」に「-서」が付いたものである。(52h)はやや特殊な活用形の例であるが、日本語と韓国語の表現は全く並行した構造になっている。

<sup>11</sup> 接尾辞「-的」を含む表現は、日本語では形容動詞の語幹として用いられるが、韓国語では名詞として扱われる。したがって、指定詞「이다」/ida/(である)を付けて用言化され助詞「으로」/ûro/を付けて副詞化される。

以上のような日韓の表現の対応関係は、説明の便宜上整理して示したものであって、実際にはこのような整然とした対応関係にあるわけではない。(52e)の‘with caution’が「テ形」の「用心して」と副詞形の「慎重に」の両方に訳せるように、多くの場合両方の形式が可能である。韓国語でも同様で、(52f)の「서둘러」/sôdullô/は「급히」/kûp'i/のような副詞形で表わすこともできる。しかしながら、ここで主張したいことはそのような日韓の翻訳形式の対応関係ではなく、英語の連用修飾用法の前置詞句の意味が、日本語においても韓国語においても用言の活用形で表わされることが多い事実である。(52e)~(52h)の例からそのことは十分に理解できると思われる。

日本語や韓国語で用言を用いて表わされる意味内容が、英語では前置詞句によって表わされる。このとき中心語となる名詞は動作や状態・性質を表す名詞(その多くは派生名詞である)であり、(50)~(52)に挙げた例に見られるようにその大部分は用言からの派生名詞である。これは、本章の冒頭に取り上げた無生物主語構文と似た性質が前置詞句の一部にも現れていることを示している。この点から副詞での置き換えが可能であるかどうかとは関係なしに英語の前置詞句を見直してみると、いくつか興味あるケースが見られる。

1つは、次のような‘with’によって導入される前置詞句である。

(53) a) Man begins life *with a cry*.

(日)人はおぎゃあと泣いてこの世に生まれ出る。

(韓)사람은 응애하고 울면서 세상에 태어난다.

b) The boss expressed his disapproval *with a frown*.

(日)主任は渋い顔をして不賛成の意を示した。

(韓)상사는 인상을 쓰며 반대 의사를 표했다.

c) The old woman greeted her *with a sigh of relief*.

(日)老婆はほっと息をついて彼女を迎えた。

(韓)노파는 안도의 숨을 내쉬며 그녀를 맞이했다.

<sup>12</sup> 自動詞としている辞書もある。



(53a)の‘with a cry’を「泣き声と共に」や「産声とともに」のように英語の表現に忠実に訳すことも考えられるが、どこか翻訳調でやはり「おぎゃあと泣いて」とか「産声を上げながら」のように用言の活用形式で表現する方がはるかに自然である。(53b)の‘with a frown’は「渋い顔で」と訳してもよいが、(53c)のを「安堵の息で」と訳したのでは意味は通じても日本語の表現ではない。韓国語も同じで「응애하고 울면서」/ûng-æ-hago ulmyônsô/(おぎゃあと泣きながら)、「인상을 쓰며」/insangûl ssûda/(顔をしかめて)、「안도의 숨을 내쉬며」/ando-e sumûl næshwimyô/(安堵の息を吐いて)のように用言の活用形を用いないと自然な表現にはならない。

このような付帯的動作を表わす‘with’前置詞句には他に次のような例がある。

(54) with a <i>grin</i>	にやっと笑って	싱긋 웃으며
with a <i>smile</i>	微笑みながら	웃는 낫으로
with a <i>sneer</i>	あざ笑って	비웃으며
with a <i>snigger</i>	くすくす笑って	낄낄 웃으며
with a <i>giggle</i>	くすくす笑って	낄낄 웃으며
with a <i>chuckle</i>	含み笑いをして	싱글싱글 웃으며
with a <i>laugh</i>	笑って	웃으며
with a <i>sob</i>	すすり泣きながら	흐느껴 울며
with a <i>murmur</i>	ぶつぶつ言いながら	중얼거리며
with a <i>yawn</i>	あくびをして	하품을 하면서
with a <i>hiccup</i>	しゃっくりをしながら	딸꾹질하면서
with a <i>smack</i>	舌打をして	입맛을 다시며
with a <i>bow</i>	お辞儀をして	인사하며
with a <i>wink</i>	ウィンクをして	윙크하며
with a <i>gasp</i>	あえぎながら	헐떡거리며
with a <i>shudder</i>	身震いをして	몸서리치며

第2は群前置詞的表現である。群前置詞とは、‘in front of’(～の前で)、『because of’(～のために)、『owing to’(～によって)、『according to’(～によれば)、『regardless of’(～にかかわらず)のように2語以上の語で構成される構造が、単独の前置詞と同様に語と語を関係づけるのに用いられる場合を言う。

一部の派生名詞は、次のように、前後に前置詞を置いて全体として群前置詞的な構造をなす。このような群前置詞的構造の表わす意味は、日本語や韓国語では用言の活用形を用いて表わすのが普通である。

(55) a) I had a lot to say *in relation to* the affair.

(日)そのことについて言いたいことが山とあった。

(韓)그 일에 관하여 할 말이 많았다.

b) He left the country *in expectation of* war.

(日)戦争が起ころのを見越して国を離れた。

(韓)전쟁이 일어날 것을 예상하고 나라를 떠났다.

c) We put out the fire *in cooperation with* the neighbors.

(日)私たちは近所の人たちと協力して火事を消した。

(韓)우리들은 이웃사람들과 협력해서 불을 꺾다.

これらの例の日本語訳の当該部分はいずれも「テ形」となっている。韓国語訳でも同様で、「관하여」/kwanhayô/(関して)、「예상하고」/yesanghago/(予想して)、「협력해서」/hyômnyôk'æsô/(協力して)はそれぞれ「관하다」/kwanhada/(関する)、「예상하다」/yesanghada/(予想する)、「협력하다」/hyômnyôk'ada/(協力する)の活用形が副詞的に用いられたものである。

この種の群前置詞的表現はかなり多様である。(56)のように前置詞 'in' に導かれるものが大半を占めているが、(57)のようにその他の前置詞のものもある。

(56) <i>in the absence of</i> ~	~のいないときには	~가 없을 때는
<i>in accordance with</i> ~	~に従って	~에 따라서
<i>in addition to</i> ~	~に加えて	~에 더하여
<i>in alliance with</i> ~	~と手を組んで	~와 연합하여
<i>in answer to</i> ~	~に答えて	~에 응하여
<i>in comparison with</i> ~	~と比較して	~와 비교하여
<i>in compliance with</i> ~	~に応じて	~에 따라
<i>in conflict with</i> ~	~と衝突して	~와 충돌하여
<i>in competition with</i> ~	~と競って	~와 경쟁하여
<i>in association with</i> ~	~と共同して	~와 공동으로
<i>in celebration of</i> ~	~を祝って	~를 축하하여
<i>in connection with</i> ~	~に関して	~에 관하여

<i>in consideration of</i> ~	~を考慮して	~를 고려하여
<i>in contempt of</i> ~	~を輕蔑して	~를 경멸하여
<i>in defense of</i> ~	~を守るために	~를 방어하기 위해
<i>in defiance of</i> ~	~をものともせずに	~를 무릅쓰고
<i>in dependence on</i> ~	~に依存して	~에게 의지하여
<i>in envy of</i> ~	~をうらやんで	~를 부러워하여
<i>in imitation of</i> ~	~をまねて	~를 모방하여
<i>in relation to</i> ~	~に関して	~에 관하여
<i>in response to</i> ~	~に応えて	~에 응답하여
<i>in obedience to</i> ~	~に服従して	~에 복종하여
<i>in proportion to</i> ~	~に比例して	~에 비례하여
<i>in pursuit of</i> ~	~を追って	~를 추구하여
<i>in quest of</i> ~	~を求めて	~를 찾아
<i>in search of</i> ~	~を探して	~를 찾아서
(57) <i>with respect to</i> ~	~に関して	~에 관하여
<i>with reference to</i> ~	~に関して	~에 관하여
<i>without respect to</i> ~	~にかまわずに	~를 고려하지 않고
<i>at the sight of</i> ~	~を見て	~를 보고
<i>at the sacrifice of</i> ~	~を犠牲にして	~를 희생하여
<i>at the thought of</i> ~	~のことを考えて	~를 생각하니
<i>for fear of</i> ~	~を恐れて	~이 두려워
<i>on a search for</i> ~	~を探して	~를 찾아서
<i>under the disguise of</i> ~	~と偽って	~으로 변장하여

ここで興味深いのは、このような群前置詞的な表現ばかりでなく、単独の前置詞でも、日本語や韓国語に訳す場合用言の活用形、特に「テ形」や「아/어連用形」が使われることが多い事実である。例えば、次のような訳語の場合である。

(58) <i>about</i>	~について、~に関して	~에 대하여, ~에 관하여
<i>against</i>	~に対して、~に反して	~에 대하여, ~에 반대하여
<i>at</i>	~において	~에 있어서
<i>by</i>	~によって	~에 의하여
<i>over</i>	~を越えて	~를 넘어
<i>past</i>	~を過ぎて	~를 지나서
<i>through</i>	~を通って、~を通じて	~를 통하여
<i>toward</i>	~に向って	~를 향하여
<i>with</i>	~を持って	~를 가지고

このような例は、英語が体言型であることの証明にはならないけれども、日本

語や韓国語が用言型であることを示すには有効であろう。

第3は、前置詞‘to’と「驚き」、「喜び」などの感情を表わす名詞とで構成される次のような前置詞句の場合である。

- (59) a) He admitted, *to my amazement*, that he didn't know.  
 (日) 驚いたことに、自分が知らないことを認めた。  
 (韓) 놀랍게도, 자신이 모른다는 것을 인정했다.
- b) *To my delight*, he is to accompany me as far as Osaka.  
 (日) うれしいことに、彼が大阪まで来てくれることになりました。  
 (韓) 기쁘게도, 그가 오오사카까지 와 주기로 되었습니다.
- c) *To the delight of* all who are present here, Mr. Green has recovered completely.  
 (日) ここに出席されている方々がみな喜んでおられますが、グリーンさんは全快されました。  
 (韓) 여기에 출석하신 분들이 모두 기뻐하고 계십니다만, 그린씨가 완쾌하셨습니다.
- d) *To my great relief*, my house was not flooded.  
 (日) 私の家は浸水しなかったので全くほっとしました。  
 (韓) 우리집은 침수하지 않았기에 안심했습니다.

この表現形式は、ある出来事の結果としての心的状態を文修飾副詞的に表わすものである。感情の主体は、人称代名詞であれば‘my’、‘his’など所有格形で示し、人称代名詞以外の表現の場合には(59c)のように‘of ~’の形式で表わす。この表現に対する日本語訳は「～する(した)ことには」とするのが定番であるが、場合に応じて、(59c)のように接続形式「～する(した)が」としたり、(59d)のように主節形式に訳したりもする。「～する(した)こと」は名詞化構文ではあるけれども、形式名詞「こと」を用いた構文であって、用言の性質を全く失わない形での名詞化である。したがって、いずれにせよ用言形式で表現されることには変りがなく、名詞型表現ではない。一方、韓国語では(59a, b)のように形容詞の副詞形「놀랍게」/nollapke/(驚くべく)や「기쁘게」/kippûge/(嬉しく)に助詞「도」/to/(も)をつけた形式を用いるのが一般的な訳し方であるが、日本語と同

様、場合に応じて(59c)のように接続形式「기뻐하고 계십니다만」/kipphago kyeshimnidaman/(喜んでおられますが)にしたり、(59d)のように「안심했습니다」/ansimhaessumnida/(安心しました)主節形式にしたりする。やはり、名詞型表現ではない。

この形式には他に次のような例がある。

(60) to ~'s <i>amusement</i>	~にとって面白かったことに
to ~'s <i>annoyance</i>	~にとって腹の立つことに
to ~'s <i>astonishment</i>	~が驚いたことに
to ~'s <i>entertainment</i>	~にとって面白かったことに
to ~'s <i>disappointment</i>	~ががっかりしたことに
to ~'s <i>disgust</i>	~にとってうんざりすることに
to ~'s <i>distress</i>	~にとって困ったことに
to ~'s <i>indignation</i>	~を憤激させたことに
to ~'s <i>regret</i>	~にとって残念なことに
to ~'s <i>sorrow</i>	~にとってかなしいことに
to ~'s <i>surprise</i>	~が驚いたことに

#### 4.2.4 'of importance' タイプの前置詞句

前置詞句には 'the money in the envelope' (封筒の中のお金) のような連体修飾用法もある。そして、連用修飾用法の前置詞句が単独の副詞を置き換える場合があるように、連体修飾用法の前置詞句が一部の形容詞の置き換え表現として使われる場合がある。これもまた用言型表現の体言型への置き換えとみなすことができる。

- (61) a) Is this book *of any use* (= useful) to you?  
 (日) この本はお役に立ちますか?  
 (韓) 이 책은 도움이 됩니까?
- b) This guidebook was *of no use* (= useless) to us.  
 (日) このガイドブックは何の役にも立たなかつた。  
 (韓) 이 가이드북은 아무 도움도 되지 않았다.
- c) His story was *of great interest* (= very important).  
 (日) 彼の話はとても面白かつた。  
 (韓) 그의 이야기는 매우 재미있었다.

- d) We visited places *of historic interest* (= *historically interesting* places).  
 (日) 歴史上の名所を訪れた。  
 (韓) 역사상의 명소를 찾아갔다.
- e) The cultivation of a hobby and new interests is a policy *of first importance* (= the most important policy) to a public man.  
 (日) 趣味や新しい関心事を養うことは、公職にある者にとっては第一に重要な方策である。  
 (韓) 취미나 새로운 관심사를 갖는 것은 공직에 있는 사람에게는 가장 중요한 방책이다.
- f) The poet was a man *of imagination and sensibility* (= an imaginative and sensible man).  
 (日) その詩人は想像力に富み感受性の鋭い男だった。  
 (韓) 그 시인은 상상력이 풍부하고 감수성이 예민한 남자였다.

このような形容詞の置き換え表現としての前置詞句には、(61a)~(61c)のような叙述的用法もあり、(61d)~(61f)のような制限的用法もある。前置詞句の核となる名詞には連体修飾語がつくことが多いけれども、(61f)のような例からわかるように必ずしも義務的ではない。‘great’、‘no’、‘little’、‘any’、‘much’などの程度を表わす語が付くことが多く多様性に乏しいように見えるが、可能性としては実に様々な連体修飾語を付けることができる。『研究社新英語活用辞典』によれば、‘of ~ importance’の位置には上のものの他、次のような修飾語が可能である。

(62) <i>of basic importance</i>	根本的に重要な
<i>of capital importance</i>	最も重要な
<i>of cardinal importance</i>	枢要な
<i>of enormous importance</i>	非常に重要な
<i>of especial importance</i>	特に重要な
<i>of extreme importance</i>	極めて重要な
<i>of crucial importance</i>	断然重要な
<i>of first-rate importance</i>	最も重要な
<i>of grave importance</i>	非常に重要な
<i>of the highest importance</i>	最も重要な
<i>of key importance</i>	極めて重要な
<i>of last importance</i>	最も重要な

of <i>leading</i> importance	極めて重要な
of <i>momentous</i> importance	極めて重要な
of <i>outstanding</i> importance	ひときわ重要な
of <i>overshadowing</i> importance	圧倒的に重要な
of <i>paramount</i> importance	最も重要な
of <i>primary</i> importance	根本的に重要な
of <i>fundamental</i> importance	根本的に重要な
of <i>prime</i> importance	最も重要な
of <i>profound</i> importance	はなはだ重要な
of <i>real</i> importance	真に重要な
of <i>sovereign</i> importance	最高に重要な
of <i>superior</i> importance	特に重要な
of <i>supreme</i> importance	最も重要な
of <i>urgent</i> importance	切に重要な
of <i>utmost</i> importance	最も重要な
of <i>vital</i> importance	根本的に重要な
of <i>more or less</i> importance	多少重要な
of <i>relative</i> importance	比較的重要な
of <i>secondary</i> importance	二次的に重要な
of <i>subordinate</i> importance	付随的に重要な
of <i>small</i> importance	重要性の小さい
of <i>minor</i> importance	さほど重要でない
of <i>the least</i> importance	少しも重要でない
of <i>trifling</i> importance	あまり重要でない
of <i>far-reaching</i> importance	種々の点において重要な
of <i>fresh</i> importance	新たに重要な
of <i>growing</i> importance	ますます重要な
of <i>present</i> importance	さし当たって重要な
of <i>permanent</i> importance	永久に重要な
of <i>practical</i> importance	実際的に重要な
of <i>commercial</i> importance	商業的に重要な
of <i>historic</i> importance	歴史的に重要な
of <i>international</i> importance	国際的に重要な
of <i>national</i> importance	国家的に重要な
of <i>local</i> importance	地方的に重要な
of <i>strategic</i> importance	戦略的に重要な
of <i>worldwide</i> importance	世界的に重要な
of <i>military</i> importance	軍事的に重要な

これが可能性のすべてを網羅しているわけではなく、必要に応じてこれ以外にも様々な連体修飾語が可能であろう。同辞典の 'important' の項を見ると副詞

による修飾の例として ‘*highly important*’ (非常に重要な)、‘*less important*’ (それほど重要でない)、‘*numerically important*’ (数が多いので重要だ)、‘*supremely important*’ (極めて重要な)、‘*too important to be neglected*’ (はなはだ重要で無視できない) のわずか5例しか挙げていない。「重要さ」を限定したいとき ‘*of ~ importance*’ の形式がいかによく用いられるかを示すものであると言えよう。

‘*of importance*’ の形式を取り得る語はそれほど多くない。(61)に挙げた ‘*use*’, ‘*interest*’, ‘*importance*’ の他には次のようなものがある程度である。<sup>13</sup>

(63)	<i>of value</i> (= <i>valuable</i> )	価値のある
	<i>of help</i> (= <i>helpful</i> )	役に立つ
	<i>of significance</i> (= <i>significant</i> )	重要な
	<i>of advantage</i> (= <i>advantageous</i> )	有利な
	<i>of assistance</i>	役に立つ
	<i>of consequence</i>	重要な
	<i>of much account</i>	重要な

しかしながら、様々な連体修飾語を付けることによって、多様な表現が生み出される。

(61f)のような人の性格描写をする ‘*a man of ~*’ という形式の場合には、次に示すように多様な語が用いられる。

(64)	<i>a man of ability</i>	(= <i>an able man</i> )	敏腕家
	<i>a man of action</i>	(= <i>an active man</i> )	活動的な人
	<i>a man of breeding</i>	(= <i>a well-bred man</i> )	育ちのいい人
	<i>a man of culture</i>	(= <i>a cultured man</i> )	教養のある人
	<i>a man of courage</i>	(= <i>an courageous man</i> )	勇敢な人
	<i>a man of dignity</i>	(= <i>a dignified man</i> )	品位のある人
	<i>a man of eloquence</i>	(= <i>an eloquent man</i> )	弁舌さわやかな人

<sup>13</sup> ‘*assistance*’ や ‘*account*’ には対応する形容詞形がなく、‘*consequence*’ の形容詞形 ‘*consequent*’ は「~によって起こる」の意味であって、「重要だ」の意味ではない。また、‘*account*’ には ‘*of much account*’ の他、‘*of great account*’ (重要な)、‘*of small account*’ (あまり重要でない)、‘*of little account*’ (たいしたことない)、‘*of no account*’ (つまらない) のように必ず何らかの連体修飾語が付く。



a man of great <i>fame</i>	(= a very famous man)	著名人
a man of <i>honor</i>	(= an honorable man)	信義を重んじる人
a man of <i>leisure</i>	(= a leisured man)	ひまな人
a man of <i>resource</i>	(= a resourceful man)	機転のきく人
a man of <i>sense</i>	(= a sensible man)	分別のある人
a man of <i>stability</i>	(= a stable man)	沈着な人
a man of <i>talent</i>	(= a talented man)	才能のある人
a man of <i>virtue</i>	(= a virtuous man)	徳の高い人
a man of <i>vitality</i>	(= a vital man)	活気のある人
a man of <i>wealth</i>	(= a wealthy man)	資産家
a man of true <i>wisdom</i>	(= a really wise man)	賢者

#### 4.2.5 ‘a good pianist’ タイプの名詞句

体言型表現への置き換えの特殊なタイプとして、行為者名詞を用いた次のような表現がある。

- (65) a) My sister is *a good pianist* (= plays the piano well).  
 (日) 妹はピアノが上手だ。  
 (韓) 동생은 피아노를 잘 친다.
- b) I am *a poor painter* (= cannot paint a picture well).  
 (日) 私は絵が下手だ。  
 (韓) 나는 그림을 못 그린다.
- c) He is *a bad sailor* (= gets seasick easily).  
 (日) 彼は船に弱い。  
 (韓) 그는 배멀미를 한다.
- d) She is *a good beggar* (= collects money well).  
 (日) 彼女は金集めがうまい。  
 (韓) 그녀는 돈을 잘 모은다.
- e) My father is *an early riser* (= gets up early).  
 (日) 父は早起きだ。  
 (韓) 아버지는 일찍 일어나신다.
- f) She is *a good speaker of English* (= speaks English very well).  
 (日) 彼女は英語を話すのがとても上手だ。  
 (韓) 그녀는 영어회화를 잘한다.

これらの例のうち、(65a)～(65b)は意味が2通りに解釈できるいわゆる「曖昧

文」である。(65a)の‘a good pianist’は職業的な「ピアニスト」を意味する‘pianist’に形容詞の‘good’が付いた分析的な構造であるとする解釈、つまり「良いピアニスト」という解釈がまず可能である。さらに‘be a good pianist’を(65a)の日本語訳として与えたように「ピアノ(を弾くの)が上手だ」の意味に解釈することもできる。つまり、括弧内に示した‘play the piano well’と同じ意味にも解釈できるのである。同様にして、(65b)の‘be a poor painter’、(65c)の‘be a bad sailor’、(65d)の‘be a good beggar’は、それぞれ、「貧しい画家だ」、「悪い船乗りだ」、「善良な乞食だ」のような分析的な解釈の他に、「絵が下手だ」、「船に弱い／すぐ船に酔う」、「金集めが上手だ」という括弧内の表現と同じ意味にも解釈できる。‘riser’や‘speaker’には、特定の職業などを表わす意味はなく、単に「起きる人」、「話す人」の意味にしか解釈されないので、(65e)や(65f)には解釈上の曖昧性はない。いずれも括弧内に与えられた表現と同じ意味に解釈される。括弧内に与えられた表現は明らかに動詞を中心とする用言型の表現である。したがって、‘a good pianist’タイプの表現は用言型表現の体言型表現への置き換えの一種と考えることができよう。

類例を挙げると次の通りである。

(66)	be a good <i>cook</i>	(= cook well)	料理が上手だ
	be a poor <i>correspondent</i>	(= seldom write a letter)	筆無精だ
	be a good <i>dancer</i>	(= dance well)	踊りが上手だ
	be a heavy <i>drinker</i>	(= drink heavily)	酒に強い
	be a good <i>driver</i>	(= drive a car well)	運転がうまい
	be an excellent <i>golfer</i>	(= play golf very well)	ゴルフが上手だ
	be a habitual <i>liar</i>	(= tell lies habitually)	いつも嘘をつく
	be a fast <i>runner</i>	(= run fast)	足が速い
	be a good <i>singer</i>	(= sing well)	歌がうまい
	be a heavy <i>smoker</i>	(= smoke heavily)	タバコをよく吸う
	be a good <i>storyteller</i>	(= tell a story very)	話が上手だ
	be a bad <i>swimmer</i>	(= cannot swim well)	泳ぎが下手だ
	be a great <i>traveler</i>	(= travel a lot)	旅行好きだ
	be a good <i>writer</i>	(= write well)	筆がたつ

## 4.2.6 'have the fortune to do' タイプの表現

「have + 名詞 + 'to'不定詞」の構造を持つ表現の中には、用言型表現を体言型に置き換えたとみなせるものがある。

- (67) a) *I had the good fortune to obtain his help* (= fortunately obtained).  
 幸運にも彼の助力が得られた。  
 행복하게도 그의 도움을 받을 수 있었다.
- b) *He had the misfortune to lose his wife* (= unfortunately lost).  
 彼は不幸にも妻をなくした。  
 그는 불행하게도 아내를 잃었다.
- c) *She had the kindness to pick me up at my house* (= kindly picked).  
 彼女は親切にも家まで車で迎えに来てくれた。  
 그녀는 친절하게도 차로 마중을 나왔다.
- d) *He had the courage to say "no."* (= courageously said)  
 彼は勇敢にも「いいえ」と言った。  
 그는 용감하게도 '아니오'라고 대답했다.

これらの表現は、構造的には 'have the ability to do' (～する能力がある)、'have the power to do' (～する力がある)、'have the right to do' (～する権利がある) などと同じである。しかしながら、英文の構造に忠実に「彼の援助を得る幸運があった」、「妻を亡くす不幸があった」、「家まで車で迎えに来てくれる親切さがあった」、「「いいえ」と言う勇気があった」のように翻訳したのでは、程度の差はあるが「バタ臭い」文章になってしまう。韓国語の場合も同じで、「그의」/kû-e/(彼の)・「도움을」/toûm-ûl/(援助を)・「받는」/pannûn/(得る)・「행운이」/hæng-ûn-i(幸運が)・「있었다」/issôtta/(あった)などのように英語の構造に忠実に訳すと、やはり翻訳調で不自然な文章になってしまう。これは、(67)のような表現は体言型の構造をしているけれども、意味的には括弧内に示したような用言型の表現と等価であるからである。つまり、'have the fortune to do' タイプの表現は用言型で表わされるべき意味を体言型で表現したものであるとみなすことができる。

このタイプの表現を作る名詞はそれほど多くはないけれども、他に次のようなものがある。

(68) have the <i>confidence</i> to do	(= confidently do)	大胆にも～する
have the <i>good sense</i> to do	(= sensibly do)	思慮深く～する
have the <i>grace</i> to do	(= gracefully do)	潔く～する
have the <i>goodness</i> to do	(= fortunately do)	運良く～する
have the <i>happiness</i> to do	(= happily do)	運良く～する
have the <i>luck</i> to do	(= luckily do)	運良く～する
have the <i>impertinence</i> to do	(= impertinently do)	生意気にも～する
have the <i>energy</i> to do	(= energetically do)	元気に～する
have the <i>cruelty</i> to do	(= cruelly do)	残酷にも～する
have the <i>audacity</i> to do	(= audaciously do)	大胆にも～する
have the <i>imprudence</i> to do	(= imprudently do)	厚かましくも～する

以上、英語が体言型言語であることを示すために、7通りの表現形式を取り上げて論じた。これらの表現形式は必ずしも頻繁に用いられているわけではない。例えば、同族目的語構文は学習参考書や辞書には必ずと言っていいほど取り上げられているけれども、実際のテキストや会話の中でその実例に出会うことはめったにない。しかしながら、実際の使用頻度とは関係なくこれらの表現は「英語らしさ」を感じさせる。その「らしさ」というのは、とりもなおさず、体言型言語としての「らしさ」である。

既に述べたように、どの言語にも体言型の表現と用言型の表現がある。したがって、英語に体言型の表現形式があること自体は英語が体言型言語であるということの証明にはならない。ところが、上に取り上げた表現形式は単なる体言型表現ではない。本来ならば動詞、形容詞、副詞などによって表わされるべき非体言型の意味内容を体言型に表現したものであることに注目しなければならない。実際、上に挙げた例の大部分についてはそれに対応する非体言型の表現も使われている。意味内容に忠実な非体言型表現で用が足りるのにもかかわらず体言型表現が使われているという事実は、英語が体言型表現に対する強い

志向性を持っていることを示すものである。しかも、ここに取り上げた表現形式はそのような英語らしい体言型表現のすべてではなく、比較的例の多いタイプの表現を取り上げたに過ぎない。英語のテキストとそれを自然な日本語あるいは韓国語に翻訳したものとを照合してみれば、ここに取り上げたタイプのもの以外にも、英語が体言型であることを示唆する例が数多く見つかるであろう。

一方、日本語と韓国語については、上に挙げた種々の英文の訳例からもわかるように英語のような体言型表現に対する志向性はない。韓国語の「하다動詞」構文や「同族目的語」構文、日本語の「スル動詞」などのように構造的には英語の場合と似ている表現も見られるけれども、機能的に見ると同じではないことも指摘した。日本語や韓国語の表現を全体的に見渡しても、英語のように体言型表現に対する志向性を示唆するような表現は見当たらない。したがって、日本語や韓国語は少なくとも体言型言語ではないと言うことはできる。では、さらに議論を一步進めて、日韓両語が用言型言語であることを示すためにはどのような論証が必要であろうか。体言型言語の場合と全く並行的であるとすれば、非用言型の意味内容を表わすのに用言型の表現が用いられていることを示すことであろう。§4.2.3の議論の中で、副詞に相当する表現として日本語や韓国語では動詞の活用形、特に「テ形」や「아/어連用形」が頻繁に用いられることを見た。これは日本語と韓国語が用言型の言語であることを示す根拠の1つに数え上げることができる。しかしながら、英語で用言型の意味を体言型で表現する形式があるのと逆に、日本語や韓国語で体言型の意味を用言型の表現を用いて表わす場合があるかという点、どうもそのようなケースは見当たらないようである。これは言語と認識の問題に関わることであると思われる。用言型の意味、つまり「出来事」や「状態」を名詞化という操作を通じて体言型の表現で表わすことはあるけれども、体言型の意味、つまり「物」を用言型の表現を用いて表わすことはないようである。したがって、用言型の意味を、体言型表現を用い

ず忠実に用言型で表現すること自体が、用言型言語であることの証拠と考えられるのではないか。その意味において、日本語や韓国語は英語に比べて明らかに用言型の特徴を強く持った言語であるといえよう。

### 4.3 連体修飾と連用修飾

英語が体言型言語であるのに対して、日本語や韓国語が用言型言語であることを上に議論した。本節では、この表現型の違いが日韓両語のオノマトペの機能的類似性や英語のオノマトペとの相違とどのように係わるかを論じることにする。

体言型表現とは体言を中心として連体修飾語句により表現を精密化するものであるから、体言型言語においては連体修飾語(形容詞)が発達しやすいと推測できる。一方、同様の理由により、用言型言語では用言修飾語(副詞)が発達しやすいと予測される。実際、体言型言語である英語では、連体修飾の方が連用修飾よりも自由度が高いようである。連体修飾は形容詞を中心として行われるが、その形容詞のほとんどは本来の形容詞であり、他品詞からの派生形容詞は少数派である。これに対して、連用修飾の中心である副詞の場合はその大部分が形容詞に副詞語尾 ‘-ly’ を添加することによって作られる派生副詞であり、本来の副詞は極めて少ない。しかも、日本語や韓国語ではほとんど全ての形容詞類から副詞が派生され用いられているのに対して、英語には副詞を派生させない形容詞がかなりあるし、副詞形があってもほとんど用いないこともある。例えば、‘big’ (大きい)、‘small’ (小さい)、‘long’ (長い)、‘short’ (短い)、‘hard’ (固い)、‘round’ (丸い)などの形容詞にはこれに対応する意味での派生副詞は持たない。<sup>14</sup> また、一般に‘red’ (赤い)、‘blue’ (青い)などの色彩形容詞からは ‘-ly’ 副

<sup>14</sup> ただし、‘talk big’ (大言壮語する)、‘sing small’ (低く歌う)、‘run short’ (不足する)などのように派生語尾 ‘-ly’ を付けずに形容詞と同じ形のままで副詞的に用いられる単純形副詞 (flat adverb) の用法はある。

詞を派生できない。さらに、おそらく音韻的な理由により、‘friendly’(親しい)、『fatherly’(父親らしい)、『timely’(折よい)など「名詞+‘-ly’」の形の派生形容詞から派生される ‘-ly’ 副詞がないか、あってもまれにしか使われない。<sup>15</sup>

英語の前置詞句の用法についても体言型の特徴が現われている。英語の前置詞句は連用修飾にも連体修飾にも用いることができるのに対して、これに対応する日本語や韓国語の後置詞句、つまり「名詞+助詞」の結合は、原則として連用修飾にしか用いられない。唯一、連体修飾に用いられるのは「の」と「의」(の)による後置詞句だけであり、その他の助詞による後置詞句を連体修飾に用いる場合には、「の」や「의」をさらに付けなければならない。

(69) a) They were freed *from* hunger at last.

ついに飢えから解放された。

드디어 기아로부터 해방됐다.

b) freedom *from* hunger

飢えからの解放/\*飢えから解放

기아로부터의 해방/\*기아로부터 해방

また、次の(70)に示すように、英語では前置詞句 ‘in the envelope’ が用言修飾にも体言修飾にも用いられるけれども、日本語や韓国語で後置詞句「封筒の中に」や「봉투 속에」/pong-tu so-ge/(封筒の中に)を体言修飾に用いる場合には、「に」と「에」/e/(に)をそれぞれ「の」と「의」/ûi/(の)に変えるか、あるいは「ある」や「있는」/innûn/(ある)のような用言の連体形を補って形容詞節の形にしなければならない。

(70) a) The money is *in* the envelope.

金は封筒の中にある。

돈은 봉투 속에 있다.

<sup>15</sup> 例えば‘chilly’には派生副詞形‘chillily’があるけれども、使われるのはまれである。

- b) the money *in* the envelope  
 封筒の中の金／封筒の中にある金／\*封筒の中に金  
 봉투 속의 돈／봉투 속에 있는 돈／\*봉투 속에 돈

さらに、英語には様々な句構造や文をハイフンで結んで1語の形容詞を造る造語法があり、新しい形容詞が次々に創り出されている。<sup>16</sup>

- (71) a) a *180-per-hour* train (時速180マイルの列車)  
 the September *cost-of-living* increase (9月の生活費の上昇)
- b) *out-of-court* settlements (示談)  
 a *door-to-door* canvass (戸別勧誘)  
 a *floor-to-ceiling* search (徹底的捜査)
- c) a *hit-and-run* driver (ひき逃げ運転手)  
 a *bombed-out* city (徹底的に爆撃を受けた都市)  
 the *borrow-and-defend* strategy (借金による防衛戦術)
- d) *ready-to-wear* goods (既製品)  
*black-and-white* film (白黒フィルム)  
 a *45-foot-high* wall (45フィートの高さの壁)
- e) a *Government-sponsored* study (政府後援の研究)  
 a *previously-scheduled* meeting (前から予定された会談)  
 a *nuclear-powered* submarine (原子力潜水艦)
- f) an *oil-producing* company (石油会社)  
 the *fact-finding* commission (事実調査委員会)  
*high-ranking* officials (高官)
- g) a *take-it-or-leave-it* offer of compensation (受け取るのも受け取らないのも自由であるという補償金の申し出)  
 a \$50,000 *winner-take-all* tennis match (勝者が賞金5万ドルの全学を取るテニス試合)

このようなハイフン付き形容詞 (hyphenated adjective) は、コンパクトで視覚的にも分かりやすいため新聞で多用され、新聞英語の特徴の1つに数え上げられるほどになっているけれども、一般の英語においても古くから活用されている造語法である。

<sup>16</sup> (71)の例は安田(1978)によるものである。



以上のように、体言型の英語では体言修飾の自由度が高いが、では、用言型の日本語や韓国語では用言修飾の自由度が高いと言えるのであろうか。上述のように日本語や韓国語では、ほとんど全ての形容詞類(形容詞・形容動詞)から副詞形が派生され使用されている。さらに、用言の副詞形以外の活用形、特に日本語の「テ形」や韓国語の「아/어連用形」が、副詞として機能する場合も多い。これだけでも、日本語や韓国語は英語に比べて用言修飾の自由度が高いことを主張するのに十分な根拠になるけれども、本論文のテーマと関連する重要な根拠をもう1つ挙げるができる。それは、英語とは異なり日本語や韓国語には本来の副詞が大量に存在し、その大部分がまさにオノマトペであるということである。第2章でみたように、オノマトペ、特に擬態語の中心的機能は副詞機能である。引用形語尾の「と」や「하고」/hago/あるいは副詞形語尾「に」や「히」/hi/「이」/i/を伴う場合もあるが、多くの場合語根そのままの形で副詞として用いられる。このようなオノマトペはまさしく本来の副詞として位置づけられるものであり、日韓両語の用言修飾の重要な担い手となっているのである。

以上の議論により、英語は体言型言語で連体修飾の自由度が高いのに対して、日本語と韓国語は用言型言語で連用修飾の自由度が高いということが理解できよう。このことをさらに確実なものとするためには、表現型の諸相に着目した実際の言語資料の分析調査が必要であろうが、本論文ではその1例として、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』とその英訳<sup>17</sup>とを比較分析した結果を報告する。

『銀河鉄道の夜』には、511例の様態副詞、結果副詞、あるいはそれらに準ずる副詞が用いられている。<sup>18</sup> そのうち「静かに」、「冷たく」、「一生けん命」の

<sup>17</sup> 宮沢賢治著・John Bester 訳 (1996) 『銀河鉄道の夜 (Night Train to the Stars)』(講談社バイリンガルボックス) 講談社

<sup>18</sup> 時の副詞、場所の副詞、程度の副詞、文副詞などは調査対象から除外した。これらの副詞の場合、日韓両語と英語との間で用法上の違いがほとんどなく、またここで問題にしている表現型の問題ともあまり関連性がないと思われるからである。

ような純然たる副詞は290例、「黙って」、「急いで」、「あわてて」のようなテ形副詞は24例、「ぼんやり」、「ぴかぴか」、「そっと」のようなオノマトペは197例であった。<sup>19</sup> 『銀河鉄道の夜』を始め宮沢賢治の作品はオノマトペを効果的に用いていることでよく知られており、日本語におけるオノマトペ使用の状況を忠実に反映しているとは言えない。しかし、様態副詞の約40%がオノマトペであるというのは非常に印象的であると言わざるを得ない。

これらの副詞が、どのような形式で英訳されているのかを調べその結果をまとめたものが次の表である。副詞とテ形副詞は通常副詞(非オノマトペ系副詞)としてまとめている。

(72)

	副 詞	テ形副詞	オノマトペ	計
	290	24	197	511
副 詞		134	48	182
単 純 形 副 詞		25	4	29
名 詞		6	27	33
形 容 詞		50	10	60
前 置 詞 句		29	9	38
動 詞		19	53	72
不 変 化 詞		4	14	18
オノマトペ		0	2	2
訳 語 な し		26	23	49
そ の 他		21	7	28

この結果によれば、次のように日本語の様態副詞が英語でも副詞として訳されている例は、通常副詞で134例、全体の半数をはるかに下回り、オノマトペではさらに少なく、48例、全体の4分の1にも満たない。

- (73) a) ... 不思議そうに窓の外をみているのでした。  
 ... she looked *wonderingly* out of the window.
- b) ジョバンニは、ていねいに大学士におじぎしました。  
 He turned to the eminent scholar and bowed *politely*.

<sup>19</sup> 「～(と)する」、「～(と)している」のような派生オノマトペ用言は副詞の中に入れていない。

- c) 私は必死となって、どうか小さな人たちを乗せてくださいと叫びました。  
I called out *desperately* asking them to put the little ones in.
- d) けれどもにわかにカムパネルラのお父さんがきっぱり言いました。  
Quite *suddenly*, though, Campanella's father said *briskly*.
- e) 女の子は、いきなり両手を顔にあててしくしく泣いてしまいました。  
*Suddenly*, the girl put her hands to her face and started sobbing *quietly*.

英語の単純形副詞 (flat adverb) というのは、次の例のように、副詞語尾 ‘-ly’ を付けずに形容詞と同形のまま副詞として用いられている場合を指す<sup>20</sup>(p.288, 注8)。

- (74) a) そのまっ赤なうつくしいさそりの火は音なくあかるくあかるく燃えたので  
す。  
And the beautiful, red Scorpion fire burned *silent and bright, ever so bright*.
- b) ... 静かに永久に立っているのです。  
... *silent and eternal*, it stood there ...
- c) おまえはおまえの切符をしっかりもっておいで。  
You must hold on *tight* to your ticket.
- d) ... 青くぺかぺか光ったり消えたりしていましたが...  
... they flashed *blue*, on and off ...

(74d)の ‘blue’ は色彩形容詞であるので、前述のように ‘-ly’ 副詞形を持たないけれども、(74a)～(74c)の ‘silent’、‘bright’、‘eternal’、‘tight’ には ‘-ly’ 副詞形がある。にもかかわらず ‘-ly’ 副詞形を用いずに、形容詞と同形の語が用いられているのである。このような単純形副詞が副詞であるのか、それとも形容詞の副詞的用法であるのかについては議論の余地がある。しかし、仮にこれを副詞であるとして純然たる副詞とあわせて数えても、全体に占める割合には大して変化はない。通常副詞で314例中159例、50%強に過ぎず、オノマトベで

<sup>20</sup> p.288 の注 14 を参照。

は197例中52例、依然として4分の1未満である。この数値から判断されるように、日本語と英語とでは副詞の用法に関して極めて顕著な違いがある。しかも、(72)のデータは日本語の原典とその翻訳との比較によって得られたものである。資料とした英訳は定評のある翻訳であり自然な英語であると思われるが、原典に非常に忠実に翻訳しようとしたものである。したがって、洗練された英語といっても原典の用語法に影響されるころは大きかったと考えられる。翻訳ではないオリジナルの英語では、副詞の用法は上の結果よりもさらに抑制されているのではないかと考えても、無理な推測とは言えないであろう。

次に日本語の副詞が、副詞以外の形で英訳される場合を実例に即して検討する。まず、次のように名詞として翻訳されている例が、通常副詞で6例、オノマトペで27例ある。

- (75) a) ...ある葉は青くすかし出され...  
... some leaves showed a transparent *green* ...
- b) ...見えない天の川の水がきらっと光って、柱のように高くはねあがり、どおどとはげしい音がしました。  
... the invisible waters of the Milky Way gave a *gleam*, then shot up high in a column, and there was a loud *roar*.
- c) ...口笛や人々のざわざわ言う声やらを聞きました。  
... they could hear whistling and the *murmur* of many people's voices.
- d) しずかなしずかな野原のなかにその振り子はカチツカチツと正しく時を刻んでいくのでした。  
... the pendulum, in the great silence of the countryside now that there was no wind and the train was still, marked off the time with a precise *tick-tock, tick-tock*.

(75b)の‘gleam’と‘roar’、(75c)の‘murmur’はいずれも、後述するように英語の特徴となっているオノマトペ動詞が名詞化されたものである。日本語のオノマトペが名詞として英訳される場合はこのタイプが圧倒的に多い。(75d)の‘tick-tock’は擬声語が名詞として用いられている例である。

次も動詞の名詞化と関わりがあるが、日本語の副詞が形容詞として英訳されている例が通常副詞で50例、オノマトペで10例あった。

- (76) a) ジョバンニは手を大きく振ってどしどし学校の門を出て来ました。  
Giovanni, though, gave a *vigorous* wave and marched straight on out of the gate.
- b) ...もうはっきりとそれを答えることができないのでした。  
... found he couldn't manage any *clear* answer at all.
- c) その人は黙ってそれを受け取ってかすかにうなずきました。  
The man took the box in silence, though with a *slight* nod.
- d) ...天の川もまるで遠くへ行ったようにぼんやり白く見えるだけでした。  
... the Milky Way was no more than a *white* blur somewhere in the distance.

(76a)は先述の虚語的動詞の構文であり(76c)は前置詞構文であるが、動詞の名詞化に伴い原文の副詞的意味が形容詞で翻訳されている例である。

日本語の副詞が前置詞句として英訳されている例もかなり多い。通常副詞が29例、オノマトペが9例であった。

- (77) a) 川の向こう岸がにわかになくなりました。  
*Without warning*, the opposite bank of the river had turned red.
- b) おもしろそうにわらって女の子に答えました。  
Giovanni smiled *in delight* as he replied to the girl.
- c) ...女の子がそっとカムパネルラにたずねました。  
... the girl asked Campanella *in a low voice*.

不変化詞(*particle*)というのは、大塚・中島監修(1982)『新英語学辞典』によれば、1)語形変化がなく、1音節語のような短い語が多い、2)語義が弱く、機能語である、3)語数が少なく、反対に使用頻度が高い、などの特徴を持った語であり、‘about’、‘across’、‘around’、‘along’、‘away’、‘back’、‘by’、‘down’、‘in’、‘off’、‘on’、‘out’、‘over’、‘past’、‘through’、‘under’、‘up’などの語がこれに当たる。これらの語は、前置詞として用いられたり、副詞として用いられ

たりする。日本語の副詞がこうした不変化詞で訳出されていると見られる例が、資料中に通常副詞で4例、オノマトベでは14例見つかった。

- (78) a) ...また走り出したインディアンの大きくひろげた両手に落ちこみました。  
... and the Red Indian ran forward again with arms spread *out* to catch it.
- b) どんどんどんどん汽車は降りて行きました。  
*Down and down, down and down*, went the train.
- c) どんどんどんどん汽車は走って行きました。  
*On and on, on and on*, ran the train.
- d) ...青くぺかぺか光ったり消えたりしていましたが...  
... they flashed blue, *on and off*...

やや特殊な例としては、オノマトベが英語でも日本語と同様のオノマトベ形式で翻訳された例が2例あった。

- (79) ごとごとごとごと汽車はきらびやかな燐光の川の岸を進みました。  
*Clatter, clatter*, went the train along the bank of the gleaming phosphorescent river.

(72)の表で目を引くのは、日本語の副詞が動詞として、正確に言えば動詞の中に含まれた形で、翻訳されている例がかなり多いことである。通常副詞で19例、オノマトベでは実に53例もある。

- (80) a) ...勢いよく靴をはいて...  
... then *tugged* on his shoes ...
- b) ...男の子が大いばりで言いました。  
... *boasted* the boy ...
- c) ...虹のようにきらっと光ったりしながら...  
... *glinted* in all the colors of the rainbow ...
- d) みんなもじっと河を見ていました。  
The others too were *watching* the river.
- e) ...うつくしい燐光をあげて、ちらちらと燃えるように見えた  
... created a phosphorescence that *sparkled* beautifully, as though

all afire.

- f) ...にやにや笑って、少し伸び上るようにしながら、二人の横の窓の外をのぞきました。

The lighthouse keeper *grinned* and leaned over a little to peer out of the window beside him.

その他の形式で翻訳されている例は次の通りである。

- (81) a) ...なにかなつかしそうにわらいながら...  
... with a smile *as though they were old friends*.
- b) 一生けん命で甲板の格子になったところをはなして、三人それにしっかりとりました。  
*Using all my strength* I tore off part of a deck grating and we clung tightly to it.
- c) ...その影が大きく天井にうつっていたのです。  
... its shadow, *much enlarged*, was visible on the ceiling.
- d) ...みんなともはきはき遊ばず...  
... he hadn't *had the energy to* dash around with the rest ...
- e) ジョバンニはあぶなく声をあげて泣きだそうとしました。  
Giovanni *had a hard job to avoid* busting into tears.
- f) だんだん近づいて見ると...  
As they drew *nearer*...

(81a)は節形式で、(81b)と(81c)は分詞を用いたものである。(81c)は§4.2.6で考察した 'have the courage to do' タイプの構文によるものであり、(81e)もこれに準ずる。(81f)は比較構文の中に副詞的意味が含まれていると考えられる。

最後に、副詞が英訳において全く無視されている例が、全体で10%程度あることである。

- (82) a) ...いつかまた深く首をたれて...  
Giovanni had his head down again ...
- b) ...すばやく弓を空にひきました。  
... fired his arrow into the air.

- c) ...三人の助手らしい人たちに夢中でいろいろ指図をしていました。  
... he gave orders to three men who seemed to be his assistants ...
- d) ...だまって正面の時計を見ていましたら...  
... was watching the clock directly in front of them ...
- e) ...まんまるな緑の瞳を、じっとまっすぐに落として...  
... with her round, green eyes cast down ...
- f) 頭の上の槍のような白い毛もちゃんとついていました。  
The head even had its white crest, sticking up like a spear.

この中には不注意による脱落もあるだろうが、かなり原典に忠実な翻訳であるにもかかわらず、副詞が訳出されない場合がこれだけの数にのぼっていることは、ある意味で英語における連用修飾の自由度の低さを示すものではないかとも考えられる。

以上の分析は、非常に限定された資料に基づくものであり、日本語と英語の副詞の使用状況を正確に反映するものであるとは決して言えないけれども、両言語の副詞の使い方にはかなりの違いがあることを示唆するには十分であろう。

一方、『銀河鉄道の夜』とその韓国語訳である김유영(キム・ユヨン)訳(1997)とを比較してみると、副詞の使用状況に関して日韓の間にほとんど違いはない。

- (83) a) わたしはずうと工合がいいよ。  
오늘은 날씨가 서늘해서 그런지 쭈욱 괜찮았어.  
...お父さんがかなしいのをじっとこらえて...  
... 그 아버지는 슬픔을 쭈욱 참고 ...  
青年は教えるようにそつと姉弟にまた云いました。  
청년은 가르치듯이 살짝 남매에게 다시 말했습니다.  
すると鳥捕りが横からちらつとそれを見てあわてたように云いました。  
그러자 새 사냥꾼이 옆에서 홀끗 그것을 보고 당황한 듯이 말했습니다.  
カムパネルラもぼんやりそう云っていました。  
컴파넬라도 멍하니 말했습니다.
- b) 鳥捕りは風呂敷を重ねて、またくるくると包んで紐でくくりました。  
새 사냥꾼은 보자기를 포개 다시 돌돌 싸서 끈으로 묶었습니다.  
ごとごと鳴る汽車のひびきと、すすきの風との間から、ころんころんと水の湧くような音が聞えて来るのでした。



그러자 덜컹덜컹 울리는 기차 소리와 억새풀을 스치는 바람 소리를 뚫고, 부글부글 물이 끓는 듯한 소리가 들려 오는 것이었습니다.

ごとごとごとごと汽車はきらびやかな燐光の川の岸を進みました。  
덜컹덜컹 기차는 눈부시도록 빛나는 강기슭을 나아갔습니다.

室中のひとたちは半分うしろの方へ倒れるようになりながら腰掛にしっかりしがみつきました。

기차 안의 사람들은 겁이 나는지 의자에 단단히 매달려 있었습니다.

そのうち船はもうずんずん沈みますから...  
그 동안에 배는 자꾸자꾸 가라앉았습니다.

...自分もだんだん顔いろがかがやいて来ました。  
그리고 청년의 얼굴도 점점 빛나기 시작했습니다.

...鳥捕りの時々大したもんだというようにちらちらこっちを見ているのがぼんやりわかりました。

그러나 그 새 사냥꾼이 굉장하다는 듯이 이 쪽을 힐끔힐끔 보고 있는 것을 어렴풋이 알아차렸습니다.

けれどもジョバンニは手を大きく振ってどしどし学校の門を出て来ました。  
그렇지만 죠바니는 손을 크게 휘저으며 성큼성큼 학교 문을 나섰습니다.

...燈台守は、にやにや笑って、少し伸びあがるようにしながら、二人の横の窓の外をのぞきました。

등대지기는 싱긋싱긋 웃으며 조금 고개를 빼고서 옆 창 밖을 가리켰습니다.

そこから一羽の鶴がふらふらと落ちて来て...

그러자 하늘에서 한 마리의 학이 흐느적흐느적 떨어져 내려왔습니다.

すると鷺は、螢のように、袋の中でしばらく、青くべかべか光ったり消えたりしていましたが、おしまいとうとう、みんなぼんやり白くなって、眼をつぶるのでした。

그러자 백로는 반딧불처럼 주머니 속에서 잠시 파랗게 깜박깜박 빛나다가 드디어 모두 희미해져서 눈을 감는 것이었습니다.

ジョバンニは窓のところからトマトの皿をとってパンといっしょにしばらくむしゃむしゃたべました。

죠바니는 창쪽에서 토마토 접시를 가져와 어머니 침대 위에 걸터앉아 빵과 함께 우걱우걱 게걸스럽게 먹기 시작했습니다.

やはりもじもじ立ち上がったままやはり答えができませんでした。

역시 머뭇머뭇 일어서며 역시 대답을 하지 못했습니다.

- c) 赤ひげの人が、少しおずおずしながら、二人に訊きました。  
붉은 수영의 사람이 조금 머뭇머뭇하면서 두 아이에게 물었습니다.

ジョバンニはそっちを見てまるでぎくつとしてしまいました。

죠바니는 그 쪽을 보고 정말 가슴이 덜컹해졌습니다.

青年はぞくつとしてからだをふるうようにしました。

청년은 그 소리에 움찔하며 몸을 떠는 것 같았습니다.

ジョバンニは思わずどきどきとして戻ろうとしましたが...

쵸바니는 무심코 움찔하며 돌아서려다가,

ジョバンニは、まるでどきどきして、頭をやけに振りしました。

쵸바니는 정말 가슴이 두근두근거리려 터질 지경이었습니다.쵸바니는 머리를 흔들며 보았습니다.

ところがその人は別に怒ったでもなく、頬をびくびくしながら返事しました。 그런데 그 사람은 별로 화도 내지 않고 뺨을 실룩실룩거리면서 대답했습니다.

d) ジョバンニはかすかに頭をふりました。

쵸바니는 희미하게 고개를 흔들며 대답했습니다.

その男は立って、網棚から包みをおろして、手ばやくくるくと解きました。

이 남자는 서서 그물 선반에서 보따리를 내려 재빠르게 둘둘 풀었습니다.

俄かに、車のなかで、ぱっと白く明るくなりました。

그 순간 갑자기 차안이 확 하얗게 밝아졌습니다.

すると鳥捕りが横からちらっとそれを見てあわてたように云いました。

그러자 새 사냥꾼이 옆에서 홀끗 그것을 보고 당황한 듯이 말했습니다.

e) そしてあの姉弟はもうつかれてめいめいぐったり席によりかかって睡っていました。

두 남매는 피곤하지 각각 녹초가 되어 자리에 기대어 잠들어 있었습니다.

青年はさっと顔いろが青ざめ...

청년은 순간 얼굴색이 피래져서,

そして車の中はしいんとなりました。

그리고 차 안은 조용해졌습니다.

...まじめな顔をして両手をひろげて、じっとそらを見ていたのです。

...진지한 얼굴로 양손을 펼친 채 가만히 하늘을 쳐다보고 있었습니다.

ジョバンニはもうどきまぎしてまっ赤になってしまいました。

쵸바니는 당황해서 얼굴이 빨개져 버렸습니다.

するとあの鳥捕りは、すっかり注文通りだというようにほくほくして...

그러자 그 새 사냥꾼은 마치 생각했던 그대로라는 듯이 기뻐하며 ...

...立ってみるともうはっきりとそれを答えることができないのでした。

...일어서 보니 분명하게 대답할 수 없었습니다.

f) 女の子はすなおにそこへ座って、きちんと両手を組み合せました。

여자 아이는 고분고분 그 곳에 앉아, 단정하게 양손을 가지런히 모았습니다.

その人は黙ってそれを受け取って微かにうなずきました。

그사람은 묵묵히 그것을 받아 쥐고 고개를 끄덕였습니다.

g) ...年老った女の人が、どこか工合が悪いようにそろそろと出て来て...

...할머니가 몸이 불편한 듯이 안쪽에서 걸어 나오며 ...

...まもなくみんなはきちんと立って礼をすると教室を出ました。

... 잠시 후 우리는 모두 일어서서 선생님께 인사를 하고 교실을 나섰습니다.

(83a)と(83b)の例は、それぞれ、日本語の単一形と反復形のオノマトペが、韓国語でも単一形と反復形のオノマトペで翻訳されているものである。共に副詞的用法である。(83c)は用言オノマトペが同じく用言オノマトペで翻訳されている例である。例えば、「スル動詞」の「おずおずする」が「하다動詞」の「머뭇머뭇하다」/mômunmômüt-hada/で訳されている。(83d)はオノマトペ以外の用言修飾語句を韓国語でも同様の語句で翻訳している例である。大多数の場合においては以上のように整然と対応した翻訳が可能であるほどに、日韓両語のオノマトペを含む連用修飾語句の使用状況は酷似している。しかし、100パーセント完全な対応があるわけでないことは当然のことである。(83e)の例のようにオノマトペが通常表現で訳されている場合もあれば、逆に、(83f)のように通常表現がオノマトペで訳される場合もある。例えば、(83e)の「ぐったり」には「녹차가 되어」/nokch'oga tœô/という訳が与えられているが、これは直訳すると「溶けた蠟燭になって」という意味の慣用表現である。(83f)では通常副詞の「すなおに」がオノマトペの「고분고분」/kobun-gobun/で翻訳されている。また、(83g)の「そろそろと」や「きちんと」のように韓国語訳の方にまったく訳出されていない例もある。このような不整合はあるけれども、連用修飾語句全体から見ればその使用状況に関して日本語と韓国語の間でほとんど差がないことは以上の例から明らかである。

#### 4.4 副詞型オノマトペと動詞型オノマトペ

日本語や韓国語では、オノマトペは副詞として用いられるのが中心的用法である。このような副詞的用法を中心とするオノマトペを「副詞型オノマトペ」と呼ぶことにする。一方、英語ではオノマトペが副詞として機能することはまれであり、前節に例を挙げたように動詞として用いられる場合が最も多い。前掲の(79)や次の例のように副詞的に用いられることもないわけではないが、その

ような例は圧倒的に少ない。<sup>21</sup>

- (84) His wristwatch fell *kerlop* into the swimming pool. (腕時計がプールにポチャンと落ちた。)  
 The train moved *clickety-clack* down the tracks. (列車はガタンゴトンと線路を動いた。)  
 Rain fell *pitter-patter* against the windowpane. (雨が窓ガラスにパラパラと降りつけた。)  
 Peter Rabbit ran *hipperty-hop* down the trail. (ピーターラビットがピョンピョンと道を飛び跳ねて行った。)  
 My ice-cream cone fell *splat* onto the pavement. (ソフトクリームがポタッと舗道に落ちた。)

また、前掲の(75)や次の例のように、名詞的用法のオノマトペもかなり多いけれども、そのほとんどはオノマトペ動詞が名詞化されたものである。

- (85) I heard a loud *pop* and turned to my right. (ポンと大きな音がして私は右に曲がった。)  
 It was not a *bang* exactly. It was more of a *thud*. (それは正確にはドンではなくて、どちらかと言えばドサツという感じだった。)  
 We heard too ghastly *shrieks* followed by silence. (ぞっとするような悲鳴が二度聞こえた後、静かになった。)  
 The *pitter-patter* of rain on the window ... (窓ガラスにパラパラと当たる雨の音が...)  
 With a *squawk*, the crow raised its wings and flew away. (カアと鳴いて、カラスは羽を広げ飛び去った。)  
 There was still a *glimmer* of hope in his eyes. (彼の目にはまだ希望の輝きがあった。)  
 The news of her mother's death gave her a *jolt*. (母が死んだとの知らせに愕然となった。)  
 He walked with a kind of *waddle*. (いくぶんヨタヨタと歩いた。)  
 With a violent *lurch*, the truck started down the alley. (激しくかしいでトラックは通りを走り出した。)

英語のオノマトペのように、動詞用法を中心とするオノマトペを「動詞型オ

<sup>21</sup> (84)と(85)の例は田守・スコウラップ(1999)から引用した。日本語訳及びイタリックは著者。

ノマトペ」と呼ぶことにする。日本語や韓国語のオノマトペが副詞型であるのに対して、英語のオノマトペが動詞型であるという事実はすでにしばしば指摘されてきたことである。<sup>22</sup> 三戸他編(1981)『日英対照：擬声語(オノマトペ)辞典』の序に掲げられた小論文では、オノマトペの語彙化 (Lexicalization) という観点から副詞型オノマトペと動詞型オノマトペの違いに触れている。それによれば、英語と日本語のオノマトペ表現は語彙化の度合いに関して次の4段階に区分できるという。

(86) 語彙化度 1：臨時語 (Nonce Words)

臨時的な使用のために創り出されるもので辞書には載っていない。日常会話、漫画、広告などに広く用いられているが、創り出されては消えていく。

例：(英) 'tra-la-la', 'zzzzm'; (日)「バキューン」、「ガチョーン」

語彙化度 2：オノマトペ語 (Onomatopoeic Words)

正規のオノマトペ表現を指す。普通、辞書に載っており、ほとんどすべてが文法的活用を欠いている。

例：(英) 'bow-wow', 'baa', 'cock-a-doodle-do'; (日)「ワンワン」、「メー」、「コケッコー」

語彙化度 3：部分的に辞書化された語 (Partially Lexicalized Words)

オノマトペ起源であると見なされる語で、文法的活用をするがオノマトペ的なところがあり 'Bang!', 'Crack!', 'Splash!' のように引用形で使えるもの

例：(英) 'bang', 'crack', 'splash'; (日)「ごそごそする」、「めそめそする」、「うっかりする」

語彙化度 4：完全に辞書化された語 (Fully Lexicalized Words)

オノマトペ起源であると見なされる語で、文法的活用をし、オノマトペ的なところがほとんど失われているもの

例：(英) 'chatter', 'sigh', 'sob'; (日)「驚く」、「騒ぐ」、「注ぐ」

そして、日本語が語彙化度 2 の正規のオノマトペが多いのに対して、英語ではより高度に語彙化された語彙化度 3 や 4 のオノマトペが多いとしている。これは、実質的に副詞型オノマトペと動詞型オノマトペの区分と同じことである。

このような副詞型オノマトペと動詞型オノマトペの区分を最も端的に示して

<sup>22</sup> 例えば、渡辺(1980)、寛(1986)など。

いるのが、動物や鳥の鳴き声や虫の羽音などを表わす表現である。次の対照表を見れば、英語が動詞型オノマトペであり日韓両語が副詞型オノマトペであることは一目瞭然であろう。<sup>23</sup>

(87) 動物名	英語	日本語	韓国語
ろば	bray		
くま		吠える	으르렁거리다
牛	moo	モーと鳴く	음매 울다
雄牛	bellow	モーと鳴く	음매 울다
犬	bark	ワンワンと鳴く	멍멍 짖다
	growl	吠える	멍멍거리다
	howl	うなる	으르렁거리다
象	trumpet		
きつね	bark	コンコンと鳴く	캁캁 짖다
	yelp		캁캁거리다
やぎ	baa	メーと鳴く	음매하고 울다
	bleat		
馬	neigh	ヒヒーンと鳴く	히힝 울다
	snort	いななく	
	whinny		
猟犬	bay	ワンワンと鳴く 吠える	짖어대다
ハイエナ	laugh		
ジャッカル	howl		
猫	meow	ニャーゴと鳴く	야옹하고 울다
	miaow	ニャーニャーと鳴く	
子羊	bleat	メーメーと鳴く	매애하고 울다
ライオン	roar	ガオーと吠える	으르렁거리다 울부짖다
猿	chatter	キャッキャッと鳴く	깁깁거리다
ねずみ	squeak	チューチューと鳴く	짹짹 울다 짹짹거리다
豚	grunt	ブーブーと鳴く	꿀꿀거리다
	oink		꿀꿀 울다
	squeal		괵괵거리다 괵괵거리다

<sup>23</sup> 英語の表現は『ライトハウス英和辞典』の‘cry’の項に載せられている表〈動物の鳴き声を表わす動詞〉を参考にした。

小犬	yelp yap	キャンキャンと鳴く	깁깁 짖다 캉캉 짖다 깁깁거리다
あざらし	bark		
羊	baa bleat	メーメーと鳴く	매하고 울다 매애하고 울다
とら	growl roar	ガオーと吠える	으르렁거리다
おおかみ	howl	吠える	짖다
鳥一般	sing twitter	鳴く	울다
小鳥	chirp twitter	さえずる 鳴く	짹짹 울다 짹짹거리다 지저귀다
ひよこ	cheep	ピヨピヨと鳴く	삐악삐악 울다
おんどり	crow	コケコッコーと鳴く	꼬끼오하고 울다
からす	caw	カーカーと鳴く	까악까악 울다
あひる	quack	ガーガーと鳴く	꽹꽹 울다 꽹꽹거리다
はと	coo	クークーと鳴く	꾸르륵 울다
わし	scream		
がちょう	cackle hiss	ガーガーと鳴く	꽹꽹 울다 꽹꽹거리다
たか	scream		
めんどり	cackle cluck	コッコッと鳴く	꼬꼬덕하고 울다 꼬꼬덕거리다 꼬꼬 울다
ひばり	sing warble		울다 지저귀다
かさきぎ	chatter		지저귀다
ふくろう	hoot scream screech	ホーホーと鳴く	부엉부엉 울다
おうむ	talk	鳴く しゃべる	말하다
くじゃく	scream		
わたりがらす	croak		
かもめ	scream		
白鳥	cry		
七面鳥	gobble		캉캉 울다
コンドル	scream		
がん	honk		울다

はち	buzz hum	ブンブンと飛ぶ	윙윙거리다 윙윙거리며 날다
甲虫	drone	ブンブンと飛ぶ	윙윙거리다
こおろぎ	chirp	コロコロと鳴く	
はえ	buzz	ブンブンと飛ぶ	윙윙거리다 윙윙거리며 날다
かえる	croak	ケロケロと鳴く ゲロゲロと鳴く	개굴개굴 울다
蛇	hiss		

この表からわかるように、英語では動物ごとにその鳴き声を表わす専用の動詞があると言っても過言ではないほど、多様に動詞が使い分けられている。‘cry’は白鳥ばかりでなく動物一般について「鳴く」の意味で用いることができる。しかしながら、それぞれの鳴き方の違いを特徴づけるには上のような動詞が使い分けられるのである。表(87)の動詞の中にはオノマトペとは考えられないものも含まれている。象の場合のは‘trumpet’は、鳴き声がトランペットの音に似ているためか、象の鼻の形からの類推か、いずれかあるいは両方の理由で楽器名が転用されたものであろう。また、ハイエナの‘laugh’、鳥の‘sing’、オウムの‘talk’などは人間の笑い声、歌声、話す声との類推によるものである。猿の‘chatter’もこの類に入れていいであろうが、人間の動作を表わす‘chatter’(しゃべる)自体はオノマトペであると考えられる。こうした少数の例外を除いて、その他の動詞は上述の語彙化度3あるいは4のオノマトペとみなすことができる。ただし、オノマトペであるにせよそうでないにせよ、鳴き声の違いを動詞で区分しているという点では同じである。表(87)の英語の例は全て動詞であるが、鳥獣の鳴き声などを表わす語としては、他に、‘bow-wow’ (ワンワン：犬の鳴き声)や‘cock-a-doodle-do’ (コケコッコ：鶏の鳴き声)などがよく知られている。これらは、普通、副詞的あるいは間投詞的に用いられ、動詞としては用いられない。しかしながら、このような例は極めて少数派で、動物の鳴き声や羽音などは、動詞によって表わすのが原則である。



これに対して、日本語では副詞的オノマトペを使って鳥獣の鳴き方が区別されている。犬や猛獣の場合の「吠える」や「うなる」、小鳥の場合の「さえずる」、馬の場合の「いななく」のように動詞によって区別されることもあるけれども、一般的には動詞の「鳴く」に擬声語を副詞的に冠することによって鳴き方が区別されている。虫の羽音の場合も、同様に、擬声語「ブンブン」と動詞「飛ぶ」との組み合わせによって表わされる。

韓国語の場合も、基本的には日本語と同様で、副詞的オノマトペを使って鳴き方を区別するのが原則である。「짖다」/chitta/(吠える)、「울부짖다」/ulbujitta/(吠える)、「지저귀다」/chijôgwida/(さえずる)のような特別の動詞を用いることもあるが、一般的な動詞「울다」/ulda/(鳴く)に、「음매」/ûmmæ/(モー)、「매애」/mææ/(メー)、「야옹」/yaong/(ニャーゴ)、「멍멍」/môngmông/(ワンワン)、「꼬끼오」/kkokkio/(コケコッコー)、「삐악삐악」/ppiakppiak/(ピヨピヨ)、「까악까악」/kkaak-kkaak/(カーカー)などの擬声語をそのままの形で、あるいは引用形の語尾「-하고」/hago/を付けて、連用修飾語として冠することによって表わすのが普通である。日本語と唯一異なる点は、「멍멍거리다」/môngmông-gôrida/(ワンワンと鳴く)、「깁깁거리다」/kkik-kkik-kôrida/(キャッキャッと鳴く)、「적적거리다」/tchik-tchik-kôrida/(チューチューと鳴く)、「꿀꿀거리다」/kkul-kkul-gôrida/(ブーブーと鳴く)、「꼬꼬댁거리다」/kkokkodk-kôrida/(コッコツと鳴く)などのように、韓国語ではオノマトペに反復を表わす動詞形成語尾「-거리다」/kôrida/を付けた表現がよく用いられているということである。<sup>24</sup>

副詞型オノマトペと動詞型オノマトペの違いは、鳥獣の鳴き声ばかりではなく、「泣き方」、「笑い方」、「歩き方」など様々な人間の動作を表わす表現にも顕

<sup>24</sup> 「으르렁거리다」/ûrûrông-gôrida/(トラなどがガオーッと吠える)もこのタイプの動詞のように見える

著に表れている。

人の泣き方を表わす表現の日・韓・英対照表は次の通りである。<sup>25</sup>

(88) 日本語	韓国語	英語
(声を出して)泣く	(소리치며) 울다	to cry
(涙を流して)泣く	(눈물을 흘리며) 울다	to weep
あーんあーん(と)泣く	앙앙 울다 앙앙거리다	to bawl to cry loudly with tears
おいおい(と)泣く	엉엉 울다 엉엉거리다	to blubber to cry one's heart out to bawl
おぎゃーと泣く	응애하고 울다	to mewl
ぎゃーぎゃー(と)泣く	꽤꽤 울다 꽤꽤거리다	to cry
さめざめと泣く	하염없이 울다	to cry bitterly
しくしく(と)泣く	훌쩍훌쩍 울다 훌쩍거리다	to sob to whimper
ひーひー(と)泣く	짚짚 울다 짚짚거리다	to pule
めそめそ(と)泣く	훌쩍훌쩍 울다 훌쩍거리다	to weep to whimper to sob to snivel
わーわー(と)泣く	엉엉 울다	to cry noisily
わんわん(と)泣く	엉엉 울다	to howl to pule to mewl to wail to moan
わーんと泣く	영하고 울다	to cry one's heart out
大声を上げて泣く	큰 소리를 내고 울다	to cry in a loud voice
声を立てて泣く	소리를 내고 울다	to wail
声をはりあげて泣く	소리를 내고 울다	to cry at the top of one's voice
しゃくり上げながら泣く	후후 흐느껴 울다	to blubber like a baby
火のついたように泣く		to cry loudly
すすり泣く	흐느껴 울다 흐느끼다	to sniffle to sob

けれども、語幹の「으르렁」は単独で副詞的に用いられることはない。

<sup>25</sup> 英語の表現は尾野編著(1984)『日英擬音・擬態語活用辞典』の序文に挙げられた対照表を参考にし、三戸・笈也編著(1981)編『日英対照：擬声語(オノマトペ)辞典』により補った。

むせび泣く	흐느껴 울다	to be choked with tears to cry in a choked fashion
うれし泣きする	기쁜 눈물을 흘리다	to cry for joy
くやし泣きする	분한 눈물을 흘리다	to cry out of chagrin
忍び泣きする	몰래 울다	to weep in a subdued voice
もらい泣きする	덩달아 울다	to cry in sympathy

英語の泣き方を表す表現は、基本的には‘cry’ (声を上げて泣く)と‘weep’ (声を出さず涙を流して泣く)の2通りに区別されるが、実際には様々な動詞によって泣き方の区別がなされている。(88)には、‘cry’ と‘weep’ 以外に次の11個の動詞が現れている。

(89) bawl, blubber, howl, mewl, moan, pule, sniffle, snivel, sob, whimper, wail

これらの動詞はほとんどすべて(86)の語彙化度3あるいは4のオノマトペである。‘cry’ や‘weep’ に、‘cry bitterly’ (さめざめと泣く)、‘cry noisily’ (わーわーと泣く)のように様態副詞を付けたり、‘cry in a loud voice’ (大声を上げて泣く)、‘cry at the top of one’s voice’ (声をはりあげて泣く)、‘cry in a choked fashion’ (むせび泣く)、‘weep in a subdued voice’ (忍び泣きする)のように副詞的用法の前置詞句を付けたり、あるいは‘cry one’s heart out’ (おいおいと泣く)など特殊構文によって泣き方の区別をすることもあるけれども、基本的には異なる動詞を用いることで区別がなされていると言ってよい。

一方、日本語では、動詞による区別はまったくなく、どのような泣き方の場合でも動詞は「泣く」1語しか用いられない。「号泣する」のような漢語表現があるけれども、これは「声をはりあげて泣く」、「わんわん泣く」などと同じ意味の表現であり、文体的に限定された環境でしか用いられない。泣き方の区別は、「おいおい」、「おぎゃーと」、「ぎゃーぎゃー」、「わんわん」などのような擬音語や「さめざめと」、「めそめそ」のような擬態語で「泣く」を連用修飾することに

よって表わされるのが基本である。その他の方法としては、「大声を上げて」、「声を立てて」のような「テ形」をはじめとする動詞の活用形を副詞的に用いる場合や、これに準ずるものとして、「すすり泣く」、「むせび泣く」のような複合動詞表現があるが、いずれも「泣く」を連用修飾により限定するという意味では、オノマトペによる区分の場合と変りがない。「うれし泣きする」、「くやし泣きする」、「忍び泣きする」、「もらい泣きする」は、「泣く」の名詞形「泣き」を含む複合名詞を語幹とする「スル動詞」である。「忍び泣きする」に対しては「忍び泣く」が可能であるけれども、他のものについては複合動詞表現への置き換えはできない。「スル動詞」表現には、この他に「嘘泣きする」、「男泣きする」、「作り泣きする」、「夜泣きする」などがある。

韓国語の場合も、日本語とほぼ同じ方法で「泣き方」の区分がなされている。動詞による区分はなく、<sup>26</sup> 「泣く」という意味を表わす動詞「울다/ulda/」に様々な連用修飾語句を付けることで区別がなされる。連用修飾要素として圧倒的に多いのは、「엉엉/ông-ông/(おんおん)、「응애하고/ûng-æ-hago/(おぎゃーと)、「 짹짹/kkwæk-kkwæk/(ぎゃーぎゃー)、「 훌쩍훌쩍/hultchôk-hultchôk/(しくしく、めそめそ)、「 째째/tchil-tchil/(ひーひー)などのオノマトペである。「하염없이/hayôm-ôpshi/」(とめどなく、さめざめと)、「소리를 내고/sorirlnægo/(声を立てて)、「흐느껴/hûnûkkyô/(しゃくり上げて)など用言の活用形も用いられるが一般的ではない。鳥獣の鳴き声の場合と同様、一部のオノマトペには反復の動詞形成語尾「-거리다/kôrida/」を付けた「엉엉거리다/ông-ông-gôrida/(おいおい/わんわん泣く)、「 짹 짹 거리다/kkwæk-kkwæk-kôrida/(ぎゃーぎゃー泣く)、「 훌쩍거리다/hultchôk-kôrida/(しくしく/めそ

<sup>26</sup> 「すすり泣く」の意味で「흐느끼다」という動詞が用いられるが、これは日本語の「しゃくり上げる」に当たる動詞である。「すすり泣く」の意味は、「흐느끼다」の「아/어連用形」の「흐느껴」を副詞的に用いて、「흐느껴 울다」のように表わすのがより正確な表現である。「흐느끼다」はこの表現の簡略化されたものと考えることができる。

めそ泣く)のような表現も可能である。

次に、「笑い方」の表現を比較してみよう。

(90)	日本語	韓国語	英語
	からから(と)笑う	낄낄 웃다	to laugh loudly to cackle to laugh like a kookaburra to laugh discordantly to chortle to laugh a Homeric laugh
	きゃっきゃっと笑う	깔깔 웃다	to scream with laughter
	きゃーきゃー(と)笑う		to shriek with laughter
	くすくす(と)笑う	낄낄 웃다 킁킁 웃다	to laugh secretly to giggle to snigger to snicker to titter to chuckle
	くすり(と)笑う	큭 하고 웃다	
	くっくっ(と)笑う	킁킁(낄낄) 웃다	to giggle to chuckle
	けたけた(と)笑う	낄낄 웃다	to laugh one's head off
	げたげた(と)笑う	낄낄(헤헤) 웃다	to cackle away to chuckle away
	けらけら(と)笑う	깔깔 웃다	to squeal to giggle to titter shrilly
	げらげら(と)笑う	낄낄 웃다	to roar with laughter to give a horse laugh to guffaw
	ころころ(と)笑う	깔깔 웃다	to laugh merrily
	にこにこ(と)笑う	방글방글 웃다 생긱생긱 웃다	to smile sweetly
	にっこり(と)笑う	방긱 웃다 생긱 웃다	to smile happily to smile a sweet smile to break into a smile to flash a smile to beam
	にっと笑う	씩 웃다	to grin to show a conceited smile of satisfaction
	にーっと笑う	씩 웃다	to give a big grin

にたにた(と)笑う	히죽히죽 웃다	to laugh contemptuously to snigger fiendishly to snigger impishly to simper
にやにや(と)笑う	싱글싱글 웃다 히죽히죽 웃다	to smile abashedly to smirk to give a smirk to grin to simper
にやりと笑う	싱긋 웃다 히죽 웃다 히죽 웃다	to smile to give broad grin to grin
にんまり(と)笑う	방긋이 웃다	to smirk to chuckle to oneself to chuckle happily to smile complacently to smile with satisfaction
はははと笑う	하하하 하고 웃다	to laugh haw-haw
へへへと笑う	헤헤헤 하고 웃다	
ふふんと笑う	비웃다	to sniff
へらへら(と)笑う	실실 웃다	
ほほほと笑う	호호호 하고 웃다	
せせら笑う	비웃다	to sneer

英語の表現は「泣き方」の場合よりも「笑い方」の方がかなり多様である。「笑い方」の最も基本的な動詞は 'laugh' (声を出して笑う) と 'smile' (表情だけで笑う、微笑む) であるが、これに様態副詞を付けて 'laugh loudly' (からからと笑う)、'laugh secretly' (くすくすと笑う)、'laugh contemptuously' (にたにたと笑う)、'smile sweetly' (にこにここと笑う)、'smile happily' (にっこりと笑う) などのようにしたり、副詞的前置詞句を付けて 'laugh like a kookaburra' (からからと笑う)、'smile with satisfaction' (にんまりと笑う) などのようにする例がかなりある。まれな例であるが、'laugh haw-haw' (はははと笑う) は日本語や韓国語と同じように擬声語を副詞的に使ったものである。しかしながら、「笑い方」の最も中心的な表現方法は、やはり異なる動詞の使用によるものである。'laugh' と 'smile' の他に、(90)の対照表には次の15個の異なる動詞が現れる。

- (91) beam, cackle, chortle, chuckle, giggle, grin, guffaw, simper,  
smirk, snicker, sneer, sniff, snigger, squeal, titter

これらの動詞はほとんどが(86)の語彙化度3あるいは4のオノマトベであると考えてよい。‘titter shrilly’ (けらけらと笑う)、‘snigger fiendishly’ (にたにたと笑う)、‘chuckle happily’ (にんまりと笑う)などのように、これらの動詞と様態副詞を組み合わせる場合もある。また、‘scream with laughter’ (きゃっきゃと笑う)、‘shriek with laughter’ (きゃーきゃーと笑う)、‘roar with laughter’ (げらげらと笑う)、‘flash a smile’ (にっこりと笑う)などの例は、本来笑いの意味を持たない動詞を使うことによって笑い方を特殊化しているものと解釈できる。その他の表現形式としては、‘smile a sweet smile’ (にっこりと笑う)や ‘laugh a Homeric laugh’ (からからと笑う)は同族目的語構文であるし、‘give a horse laugh’ (げらげらと笑う)、‘give a smirk’ (にやにやと笑う)、‘give a broad grin’ (にやりと笑う)などは虚語的動詞の構文であり、いずれも名詞化された動詞を含む表現である。

これに対して、表(90)で見る限り、日本語や韓国語の場合は副詞的オノマトベの独壇場と言ってよい。複合動詞表現である「せせら笑う」と「비웃다」(せせら笑う)を除いて、他はすべて「笑う」あるいは「웃다」(笑う)を副詞的オノマトベで用言修飾するという形式である。もちろん、これは表(90)に限ったことであり、実際にはここに挙げた以外にもさまざまな表現がある。日本語では、「大声で」、「密かに」、「意地悪そうに」、「腹を抱えて」などの副詞的要素で「笑う」を用言修飾することもできる。また、「笑う」の他に英語の ‘smile’ に当たる「ほほえむ」という動詞もある。<sup>27</sup> 他に、「苦笑する」、「嘲笑する」、「哄笑する」、「爆笑する」などの漢語を語幹とする「スル動詞」によって「笑い方」を区別

<sup>27</sup> ただし、表(90)からも分かるように、適当なオノマトベを付ければ「笑う」が「ほほえむ」の意味領域もカバーすることができる。

することもあり、「せせら笑う」の他に「あざ笑う」のような複合動詞、あるいは「大笑いをする」、「苦笑いをする」、「ばか笑いをする」、「含み笑いをする」、「作り笑いをする」のような名詞化された語幹を持つ「スル動詞」によっても区別がなされる。しかしながら、こうした多様な表現があるにしても、使用頻度の点から考えるならば、「オノマトペ+「笑う」」の形式の表現が圧倒的に多く用いられるということには間違いがない。

韓国語の場合も、日本語と同じような状況である。「자지러지게 웃다」/chajirôjige utta/(笑いこける)、「쾌활하게 웃다」/k'wæhwahage utta/(快活に笑う)、「떠들썩하게 웃다」/ttôdûlssôk'age utta/(やかましく笑う)、「크게 웃다」/k'ûge utta/(大笑いをする)、「배를 움켜잡고 웃다」/pærûl umk'yôjapko utta/(腹を抱えて笑う)などのようにオノマトペ以外の連用修飾語句を付けることもできるし、「웃다」/utta/以外に「ほほえむ」に当たる「미소짓다」/misojitta/や漢語語幹の「하다動詞」の「조소하다」/chosohada/(嘲笑する)なども使われている。しかしながら、日本語の場合以上に、韓国語では「オノマトペ+웃다」の形式が圧倒的に多く用いられる。第2章に述べたように、笑い方を区別するオノマトペは日本語に比べてはるかに多様であり、表(90)に挙げたものはその一部に過ぎないからである。

最後に、「歩き方」を表わす表現を取り上げる。日韓英の対照表は次の通りである。

(92)	日本語	韓国語	英語
	あたふたと歩く	허둥지둥 걸다	to bustle
	えっちらおっちら歩く	터벅터벅 걸다	to struggle along
	こそこそと歩く	살금살금 걸다 슬금슬금 걸다	to walk with stealthy steps
	さっさと歩く	빨랑빨랑 걸다	to walk quickly
	しずしずと歩く	사뿐사뿐 걸다	to walk lightly
	すたすたと歩く	중중걸음으로 걸다	to walk hurriedly



せかせか(と)歩く	성급하게 걸다 허둥지둥 걸다 헐레벌떡 걸다	to walk quickly to trot to bustle
そっと歩く	조용히 걸다	to step softly
そろそろと歩く	천천히 걸다	to walk leisurely
ちょこちょこ歩く	아장아장 걸다	to waddle
てくてく歩く	성큼성큼 걸다 터벅터벅 걸다	to stride to lollop to trudge
とことこと歩く	아장아장 걸다	to trot
どしどし(と)歩く	뚜벅뚜벅 걸다	to lumber
どしんどしんと歩く	쿵쿵거리며 걸다	to stomp along
とつとつと歩く	빨리 걸다	to walk quickly
とぼとぼと歩く	터벅터벅 걸다	to plod
どたどたと歩く	쿵쿵거리며 걸다	to walk with heavy tread
のそのそ歩く	어슬렁어슬렁 걸다	to walk languidly
のそりのそりと歩く	어슬렁어슬렁 걸다	to lumber slowly
のっしのっしと歩く	어슬렁어슬렁 걸다 유유히 걸다	to walk heavily to saunter to stroll
のろのろと歩く	느릿느릿 걸다	to walk slowly to loiter along
ばたばた歩く	허둥지둥 걸다	to walk pit-a-pat
ふらふらと歩く	비칠비칠 걸다 비실비실 걸다 뒤뚱뒤뚱 걸다 비트적비트적 걸다	to walk unsteadily to totter to shamble to teeter
ぶらぶら(と)歩く	어슬렁어슬렁 걸다	to stroll to pad
ふらりふらりと歩く	흔쩍 걸다	to sway as one walks
ぶらりぶら리歩く	어슬렁어슬렁 걸다	to stroll leisurely
ゆっくり歩く	천천히 걸다	to walk slowly to pace
ゆるゆると歩く	느릿느릿 걸다	to walk leisurely
よたよた(と)歩く	비실비실 걸다 비틀비틀 걸다	to stagger to waddle
よちよち歩く	비적비적 걸다 아장아장 걸다	to toddle to waddle
よぼよぼ歩く	비틀비틀 걸다 비칠비칠 걸다	to walk unsteadily to dodder
よろよろと歩く	비틀비틀 걸다 뒤뚱뒤뚱 걸다	to stagger heavily

足音を忍ばせて歩く	살금살금 걷다	to walk stealthily
大股に歩く	성큼성큼 걷다	to walk in strides to stride
千鳥足で歩く	갈짓자로 걷다	to stagger drunkenly
手探りで歩く	더듬거리며 걷다	to falter
得意気に歩く	의기양양하게 걷다	to strut proudly
ふんぞり返って歩く	으시대며 걷다	to swagger
前かがみで歩く	몸을 구부리며 걷다	to walk stooped

「歩き方」の場合が、日韓両語と英語の違いを最も端的に示している。日本語では「歩く」を副詞的オノマトペで限定するのが「歩き方」を区別する基本的な表現形式であり、「足音を忍ばせて歩く」以下の例のように、オノマトペ以外の連用修飾語句で限定する場合もある。「歩く」以外の動詞として「歩む」があるけれども、使用が極めて限定されており度外視していいであろう。同様に、韓国語でも「歩く」意味の動詞は「걷다」/kôtta/しかなく、それを副詞的オノマトペで連用修飾する形式が基本である。「빨리」/ppalli/(早く)、「천천히」/ch'ônch'ôn-hi/(ゆっくり)、「으시대며」/ûshidæ-myô/(威張って)、「의기양양하게」/ûigi-yangyang-hage/(意気揚々と)、「갈짓자로」/kaljit-cha-ro/(千鳥足で)などのようなオノマトペ以外の連用修飾要素で限定する場合もあるが、オノマトペによる区別に比べれば明らかに周辺的である。

一方、英語では、「歩く」の意味を表す基本語は 'walk' であり、これに 'quickly'、'lightly'、'hurriedly'、'leisurely'、'languidly' などの副詞や、'with stealthy steps'、'with heavy tread'、'in strides' などの副詞的用法の前置詞句などで用言修飾することにより、様々に「歩き方」の区分をすることができる。非常にまれな例であるが、'walk pit-a-pat' のように副詞的オノマトペによって 'walk' を修飾する例もある。しかし、この場合にも圧倒的に多いのは異なる動詞を用いることによって区別するという方法である。「歩き方」の場合には特に多く、表(92)に挙げただけでも、'walk' 以外に実に次の23個の異なる動詞がある。

- (93) bustle, dodder, falter, lumber, loiter, lollop, pace, pad, plod, saunter, shamble, stagger, stomp, stride, stroll, struggle, strut, swagger, teeter, totter, trot, trudge, waddle

そして、これらの動詞の大部分は(86)の語彙化度4のオノマトペであると考えられる。

以上に、「鳥獣の鳴き方」、「泣き方」、「笑い方」、「歩き方」の4通りの場合について、日韓両語と英語の表現形式の違いを比較対照して検討したが、いずれの場合においても、日韓両語では基本的な動詞を副詞的オノマトペで用言修飾する形式が主流であり、英語においては動詞的オノマトペが主流となっている。オノマトペ全体から見ればごく一部分を取り上げて検討したに過ぎないけれども、日韓両語と英語のオノマトペの違いを端的に示す核心的な部分であると言ってよいであろう。したがって、以上の考察から日韓両語のオノマトペが副詞型であるのに対して、英語のオノマトペは動詞型であると言える。

#### 4.5 言語の表現型とオノマトペ

§4.1と§4.2において、日韓両語が用言型言語であるのに対して、英語は体言型言語であることを論じた。そして、§4.4において、日韓両語のオノマトペが副詞型であるのに対して、英語のオノマトペが動詞型であることを論じた。日韓両語と英語との間に見られるこの2種類の相違点は、どのように関係し合っているのだろうか。

日本語や韓国語のような用言型言語が副詞型オノマトペを発達させることは、比較的容易に理解できよう。用言型の言語とは、用言型の表現、つまり用言を中心として用言修飾語によって意味をふくらませる型の表現を好む言語であるから、用言修飾語の主役である副詞の充実が要求される。日本語や韓国語のオ

ノマトペは、この要求を満たすという形で発達してきたのではないかと推測される。

これに対して、体言型の言語である英語において動詞型のオノマトペが発達していることは、一見、整合性がないように見える。しかし、これは次のように考えればそれほど不思議なことではないように思われる。体言型の言語は、定義からすれば、体言型の表現、つまり体言を中心において体言修飾により意味内容を精密化する表現を好む言語であるけれども、これを用言型表現の観点から見れば、用言型の表現の使用に対して抑制が働いている言語であると考えられる。したがって、日本語や韓国語のように自由に副詞型オノマトペを作り出すのとは別な方法で表現上の要求を満たすことになった。一部は上に挙げたような体言型の表現によって要求を満たしたけれども、動作の様態などは本来副詞など連用修飾語句により区別されるべきもの、つまり、用言型表現により区別されるべきものである。これを体言型表現で解決することには当然限界がある。用言型表現における意味を分化させるのに用言修飾語句に頼らないとすれば、残る方法は一つしかない。用言そのものを替えるしかない。つまり、動詞を共通にしてにおいて用言修飾語句を用いることで意味を豊かにするという分析的な方法ではなく、異なる動詞語根を作り出すことによって総合的に意味を区別するという方法である。体言型言語であるために副詞修飾語句を用いる分析的な方法ではなく総合的意味区分の方法を取った結果、英語には音声や様態を語幹の中に総合的に取り込んだ動詞型のオノマトペが発達することとなったと考えられるのである。

これに関連して、(86)で取り上げたがオノマトペの「語彙化度」という概念について付言しておきたい。この概念は決して言葉の進化の度合いを示す概念として解釈してはならない。オノマトペはまず語彙化度1の臨時語的オノマトペとして登場し、語彙化度2、語彙化度3と語彙化が進み、最終的に語彙化度4

の一般語になる、というような進化の過程を示すものであると解釈してはならない。日本語や韓国語には語彙化度2の副詞的オノマトペが多く、英語には語彙化度4の動詞型オノマトペが多い。しかし、このことは英語に比べて日韓両語のオノマトペの進化が遅れていることを示すものではなく、いずれ英語のように語彙化度4の動詞型オノマトペへと移行していくことを暗示するものでもない。上に述べたように、日本語や韓国語では副詞的オノマトペが最も自然なオノマトペのあり方であるのに対して、英語では動詞型オノマトペが自然なのである。新しいオノマトペが臨時語として登場する場合、漫画のラベルとして用いられるような場合を除けば、日韓両語においては副詞的オノマトペとして現れるのが普通であろうし、英語においては最初から動詞型オノマトペとして現れたとしても何の不自然さもないであろう。

#### 4.6 まとめ

本章では、日本語と韓国語がともに副詞的用法を基本的機能とする副詞型オノマトペを発達させていることに焦点を絞り、両語がなぜ副詞型オノマトペを発達させるに至ったかその背景的要因を両語の文構造の特徴の観点から考察した。

どの言語においても、文構成の骨格となる要素は体言(名詞)と用言(動詞・形容詞)である。そして、体言を限定し意味内容を豊富にする要素として形容詞を中心とする連体修飾語句があり、用言を修飾する要素としては副詞を中心とする連用修飾語句がある。文構成を中心となる要素の観点から区分すると、方策として、体言を中心語に据えて連体修飾語句の添加により意味内容を豊かにする体言型表現(名詞句)と、用言を中心語として連用修飾語の添加により意味を精密化する用言型表現(動詞句・形容詞句)との2通りに区分される。どの言語にもこの2通りの表現がある。しかし、体言型表現と用言型表現は同等の比

重で用いられるのではなく、言語によって好みに偏りがある。体言型の表現を好む傾向があると思われる言語を体言型言語、用言型の表現を好む言語を用言型言語と呼ぶ。

このような表現型の区分に基づき、体言型の言語の代表例として英語を取り上げ、それとの比較で日本語や韓国語が用言型の言語であることを論証した。英語が体言型の言語であると見なす主な根拠として次のような構文を検討した。

- ① 無生物主語構文
- ② 同族目的語構文
- ③ 虚語的動詞構文（‘give a brief answer’タイプの構文）
- ④ ‘in a great hurry’タイプの前置詞句
- ⑤ ‘of importance’タイプの前置詞句
- ⑥ ‘a good pianist’タイプの名詞句
- ⑦ ‘have the fortune to do’タイプの表現

これらの表現はいずれも体言型の表現であるが、その表わす意味は体言型表現よりむしろ用言型表現に適した意味である。実際、これらの表現と意味的に等価な表現が存在している。用言型表現で用が足せるにもかかわらず敢えてそれを体言型表現に置き換えて用いているのは、英語には体言型表現に対する強い指向性があることを示すものである。

一方、①～⑦のような構文の英文を構造に忠実に日本語や韓国語に翻訳すると、「バタ臭い」不自然な表現になる。自然な表現にするには、意味内容に即して用言型表現を用いなければならない。このことから、日本語や韓国語は体言型表現に対する指向性を持たない用言型言語であるとみなすことができる。日本語の「スル動詞」や韓国語の「同族目的語」構文、「하다動詞」のように、一見、用言型表現の体言型への置き換えのように見える表現があるけれども、その機能をよく検討してみると、英語の場合とは大きく性質が異なることがわかる。

日本語と韓国語では連体修飾よりも連用修飾の方が自由であり、逆に、英語

では連用修飾に比べて連体修飾の自由度が高い。日本語と韓国語では本来の副詞が非常に多い(そしてその大部分がオノマトベである)のに対して、英語ではほとんどが派生副詞である。また派生副詞も、日本語と韓国語ではほとんどの形容詞類から派生できるのに対して、英語では副詞派生に制約があり派生副詞を持たない形容詞が多い。一方、英語の前置詞句は連用修飾にも連体修飾にも自由に用いられるのに対して、これに相当する日本語や韓国語の後置詞句は連体修飾に用いる際に制約がある。

以上のことを例証するために、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』とその英語訳とを比較し、原典の連用修飾語句が英語訳でどのように翻訳されているかを調査した。その結果、原典の副詞や「テ形副詞」が副詞に翻訳されている例は半数以下であり、副詞的オノマトベが副詞に翻訳されている例は4分の1にも満たない。一方、副詞的オノマトベのうち4分の1以上のものが動詞に翻訳されている。これは、日本語や韓国語に比べて英語では連用修飾の自由度が低いことを強く示唆している。

『銀河鉄道の夜』とその韓国語訳との比較の結果から、連用修飾語句の使用状況に関して日本語と韓国語の間にほとんど差がないことが確認された。

日本語と韓国語のオノマトベは副詞的用法を中心的機能とする副詞型オノマトベであるのに対して、英語のオノマトベは動詞的用法を中心とする動詞型オノマトベである。このことを「鳥獣の鳴き声」、「笑い方」、「泣き方」、「歩き方」を表す日本語、韓国語、英語のオノマトベを比較対照することによって示した。

以上のことから次のように推論した。日本語と韓国語は用言型言語であり連用修飾が自由である。言い換えれば連用修飾の形で動詞に意味を付加していく傾向がある。この傾向の現われとして副詞型のオノマトベが日本語と韓国語に発達してきた。一方、体言型言語である英語では連用修飾による語義の分化を抑制する力が働いており、その結果、音声や様態を取り込んだ異なる語幹の動

詞を生み出すという形で動詞型オノマトペが発達することとなった。



## 第5章 まとめと今後の課題

本研究では、日本語と韓国語のオノマトペが実質面においてほとんど共通点を持たないにもかかわらず形態や機能の面では極めて高度な類似性を持っているのはなぜか、という疑問を出発点として両語のオノマトペが現在のような形に発達してきた背景を考察した。その論旨を整理してみると、まず両語のオノマトペの最も顕著な特徴の1つである反復形については、次のように議論を展開した。

- ・ 日韓両語のオノマトペにおいて、反復形オノマトペは他の形式のオノマトペに比べて使用頻度も分布比率も高く、オノマトペの諸形式の中で中心的役割を果たしていると考えられる。
- ・ 日韓両語の反復形オノマトペは、形態の分類および形態象徴的意味において互いに酷似している。
- ・ 日韓両語において、反復形はオノマトペばかりでなく一般語彙・一般表現でも好んで使われている。
- ・ 日韓両語において、一般語彙・一般表現の反復形は反復形オノマトペとほぼ同じ形態象徴的意味をもっている。
- ・ 日韓両語において、一般語彙・一般表現の反復形の一部は口調のいい表現として慣用句化している。
- ・ 日韓両語において、同じ統語機能を有する表現の結合形式として並列構造、すなわち結合のための明示的な要素を介在させずに表現をただ並べるだけの構造が可能である。
- ・ 日韓両語において、並列構造の表現の一部は口調のいい表現として慣用句化している。

以上を実際の用例によって例証し、そのように明らかにされた日本語と韓国語の類似点に基づき、日韓両語のオノマトペ発達の背景を次のように推論した。

日韓両語で許される並列構造においては音声構造が部分的に似た要素が並列

されることが多い。これが日韓両語の「口調」を規定する要因の1つとなり、一部の並列表現は特に口調がいいものとして慣用句化され好んで用いられた。並列構造の特殊な場合として同一の要素が並列されると反復表現となる。並列表現と同様、反復表現も口調のいい表現として好まれた。反復形式には《反復・継続》《複数》《強調》などの形態象徴的な意味が伴う。このような一般語の反復表現の形態と象徴の意味が言わば昇華される形で反復形オノマトペが次々に作り出され多用されることとなった。つまり、日韓両語がともに並列構造を許す言語であるということが、反復形オノマトペの発達を促す背景的要因であったと推論した。

一方、日韓両語のオノマトペのもう1つの顕著な特徴である副詞的用法に関しては、英語との比較で次のように議論を展開した。

- ・ どの言語においても、文構成の骨格となる要素は体言(名詞)と用言(動詞・形容詞)である。
- ・ 言語表現は、体言を中心に据えて連体修飾語句を添加することにより意味内容を精密化・複雑化する体言型表現と、用言を中心にして連用修飾語により意味を豊かにする用言型表現とに区分される。
- ・ 体言型表現と用言型表現は同等の比重で用いられるのではなく、言語によって好みに偏りがあるように思われる。体言型の表現を好む傾向があると思われる言語を体言型言語、用言型の表現を好む言語を用言型言語と呼ぶ。
- ・ 英語が典型的な体言型の言語であるのに対して、日本語や韓国語は用言型の言語であると考えられる。
- ・ 英語が体言型の言語であると見なす主な根拠として
  - ① 無生物主語構文
  - ② 同族目的語構文
  - ③ 虚語的動詞構文（‘give a brief answer’タイプの構文）
  - ④ ‘in a great hurry’タイプの前置詞句
  - ⑤ ‘of importance’タイプの前置詞句
  - ⑥ ‘a good pianist’タイプの名詞句

## ⑦ 'have the fortune to do'タイプの表現

の7種のタイプの表現を検討し、それと同時に、これらの表現に対応する日本語及び韓国語の表現の考察を通じて日韓両語が用言型の言語であることを論証した。

- ・英語では連用修飾に比べて連体修飾の自由度が高いのに対して、逆に、日本語と韓国語では連体修飾よりも連用修飾の方が自由であることを論証し、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』とその英語訳との比較を通じてこれを例証した。
- ・「鳥獣の鳴き声」、「笑い方」、「泣き方」、「歩き方」の日韓英比較を通じて、日韓両語のオノマトペが副詞型であるのに対して、英語のオノマトペは動詞型であることを示した。

以上のことから日韓両語が副詞型オノマトペを発達させた背景的要因に関して次のように推論する。日本語と韓国語は用言型言語であり連用修飾が自由である。言い換えれば連用修飾の形で動詞に意味を付加していく傾向がある。この傾向の現われとして副詞型のオノマトペが日本語と韓国語に発達してきた。一方、体言型言語である英語では連用修飾によって語義を分化させるのを抑制する力が働いており、その結果、音声や様態を取り込んだ異なる語幹の動詞を生み出すという形で、動詞型オノマトペが発達することとなった。

以上が本研究の議論の骨子であるが、この主張がさらに信頼性を高めるために今後検討が必要な課題について触れておきたい。

本研究の考察は、対象としたテーマの性質からみると、時間的にも空間的にも非常に限られた範囲のことしか扱っていない。まず時間的な点から言えば、本研究では日韓両語のオノマトペの発達の背景的要因の考察を目的としたのであるが、これは本質的に歴史的な性質の問題である。しかしながら、本論文では、日本語と韓国語の歴史的発達過程には一切触れていない。現代日本語と現代韓国語のオノマトペの比較対照から生じる「何故よく似ているか」という疑問に対して、現代日本語と現代韓国語の表現的・構文的特徴の観点から、酷似し

た発達を遂げた背景的要因を考察したに過ぎない。したがって、本研究の主張は歴史的研究によって検証されるか、あるいは少なくとも歴史的事実と矛盾しないことが確かめられてはじめて単純な推測の域を脱することができるものである。ただし、このような歴史的検証の必要性は認めるけれども、本論文は単純に日韓両語のオノマトベの歴史的発達過程を考察の対象としたものではなく、現在のような特定の特徴を持ったものに発達してきた背景的要因を探ろうとしたものである。言い換えれば、発達過程を詳細にたどろうとするのではなく、特定の方向に発達した必然的要因に迫ろうとしたものである。歴史的研究によってオノマトベの発達過程についての記述が明確になったとしても、独立に発達してきたはずの日韓両語のオノマトベがなぜ酷似した特徴を持つようになったかという疑問は依然として残るはずである。本論文はその問いに答えようとしたものである。

また、言語変化の要因を考察する場合、単純な因果関係で捉えることは往々にして困難である。オノマトベの発達についても同様であると思われる。便宜上、並列構造→反復表現→反復形オノマトベあるいは用言型言語→連用修飾語の重用→副詞型オノマトベのような方向づけで推論したけれども、これは因果関係を示すものではない。反復形オノマトベや副詞型オノマトベの最初の例がどのような理由で日韓両語に生れたかはおそらく誰も確かめることはできないであろう。日韓両語が並列構造を許す言語であり用言型言語であることは全く無関係に生れた可能性は十分にある。そのような反復形オノマトベや副詞型オノマトベの起源については本研究が関心を寄せるところではない。また、日本語と韓国語のオノマトベがそれぞれの独自の歴史的発達過程でどのような紆余曲折を経てきたかにも関心はない。本研究の関心は、独自の発達過程を経てきたはずの日韓両語のオノマトベがなぜ互いに酷似した特徴を持つに至ったか、である。それが偶然でないとするれば、そこには何らかの共通の背景的要因が働

いていたはずであるという前提から、その共通の要因を両語の構造的類似性に求めたのである。

空間的な面においても本論文の考察は極めて限定されたものである。本論文で取り上げた言語は直接の比較の対象である日本語と韓国語、表現型の比較のために取り上げた英語、それに反復形の発達過程に影響を与えたと思われる中国語の4言語に過ぎない。しかしながら、オノマトペ発達の背景的要因に関する論証は言語類型論的な観点からなされている。つまり、反復形の発達に関しては、並列構造を許す言語、反復表現を持つ言語、反復形オノマトペを持つ言語という言語類型論的区分が論証の骨格を成している。また、オノマトペの副詞的用法に関する推論は、体言型言語／用言型言語および副詞型オノマトペ／動詞型オノマトペという類型論的区分に基づいてなされている。したがって、本研究の考察が場当たりのものではなく妥当性を持つと主張するためには、広く世界の言語を調査して、こうした類型論的区分に偶然以上の一致が見られるかどうかを確認する必要がある。例えば、反復形オノマトペに関しては、並列構造を許す言語は反復表現が好まれるか、あるいは反復形オノマトペを持つ言語には一般語彙の反復形が見られるか、などを検証しなければならない。

しかしながら、副詞型オノマトペに関する考察については、類型論的な検証は難しいのではないかと思われる。なぜなら、そもそも体言型言語／用言型言語という区分は傾向に基づく区分であって、厳密に言語を類型区分するものではないからである。どの言語にも体言型表現と用言型表現の両方が存在する。英語などの言語では本来用言型で表現すべき意味内容を体言型に置き換えて表現することを好む傾向があるのに対して、日本語や韓国語のような言語ではそのような傾向がほとんど見られないという程度の、非常にゆるやかな区分であるに過ぎない。したがって、与えられた言語が体言型言語であるのか用言型言語であるのかを絶対的に判断することは難しい。本研究で日本語・韓国語と英

語とを対比した場合のように相対的に判断されるような性質の区分である。

それでは、オノマトペの副詞的用法に関する本研究の考察が根拠のないものであるかと言えば、そうではない。論証の妥当性を独立の視点から検証することは困難であるかもしれないけれども、少なくとも日本語、韓国語、英語という表現型の区分が明確に対立すると認められる3つの言語に限って言えば、互いに関連を持たないかのように見える様々な言語事実を、ある種の秩序の中にまとめることができるという点で、十分な意義を持った推論であると考えられる。

## 文献目録

### I. 研究書・論文

#### (1) 日本語で書かれた文献

- 青山秀夫 (1972) 「現代朝鮮語の擬声語」 『朝鮮学報』 第 65 輯 朝鮮学会
- (1974) 「朝鮮語の派生擬態語試考」 『朝鮮学報』 第 72 輯 朝鮮学会
- (1977) 「朝鮮語の音声象徴」 『月刊言語』 6-10 大修館書店 pp.26-33
- (1986) 「朝鮮語の擬音語・擬態語」 『日本語学』 5-7 明治書院 pp.24-32
- (1992) 「象徴語の一部の派生接尾辞について」 『朝鮮学報』 第 145 輯 pp.25-32
- 飯田秀敏 (1993) 「「あちこち」と「여기저기」」 『ことばの科学』 (名古屋大学言語文化  
部言語文化研究会) 第 6 号 pp.181-197
- 李殷娥 (1998) 「日本語と韓国語のオノマトベに関して - 反復形式を中心に -」 『国際開  
発研究フォーラム』 (名古屋大学大学院国際開発研究科) 第 10 号 pp.73-88
- (1999) 「韓国語の同族目的語に関する覚え書き」 『ことばの科学』 (名古屋大学言  
語文化部言語文化研究会) 第 12 号 pp.25-40
- 稲葉真珠 (1972) 「擬声語・擬態語における母音構造と派生語との関係について」 『成蹊国  
文』 5
- 石黒広昭 (1993) 「オノマトベの「発生」」 『月刊言語』 6 月号 大修館書店 pp.26-33
- 石垣幸雄 (1965) 「擬声語・擬態語の語構成と語形変化」 『言語生活』 171 pp.30-36
- 泉邦寿 (1976) 「擬声語・擬態語の特質」 森岡健二他編 『日本語講座第四巻 日本語の語彙  
と表現』 大修館書店
- 大坪併治 (1989) 『擬声語の研究』 明治書院
- (1982) 「象徴語彙の歴史」 森岡健二他編 『講座日本語学・4 語彙史』 明治書院
- 生越まり子 (1989) 「日本語の擬音・擬態語教授上の問題点 - 朝鮮語 (韓国語) を母語と  
する人々に対して -」 『日本語教育』 68 pp.71-81
- 角岡賢一 (1993) 「日本語の「擬似オノマトベ」 - 日本語と中国語の接点 -」 寛寿雄・田守  
育啓編 『オノマトピア - 擬音・擬態語の楽園 -』 勁草書房 pp.145-218
- 金田一春彦著 (1978) 「擬音語・擬態語概説」 浅野鶴子編 『擬音語・擬態語辞典』 角川書店
- (1988) 『日本語新版(上)』 岩波書店
- 菅野裕臣 (1986) 「オノマトベの響きく豊かな語彙と音 > [擬声擬態語、パターン]」 『月  
刊言語』 15-11 pp.54-59
- 寛寿雄・田守育啓編 (1993) 『オノマトピア - 擬音・擬態語の楽園 -』 勁草書房

- 笈寿雄 (1986) 「英語の擬音語・擬態語 - 主として日本語との対比において -」『日本語学』5-7 明治書院 pp.39-46
- (1993) 「一般語彙となったオノマトペ」『月刊言語』6月号 大修館書店 pp.38-45
- 国立国語研究所 (1964) 『分類語彙表』(国立国語研究所資料集6)
- 國廣哲弥 (1982) 「日本語再入門 擬声語、擬態語」『月刊言語』11-7
- グロータース・柴田 (1967) 『誤訳』三省堂
- 小島孝三郎 (1972) 『現代文学とオノマトペ』桜楓社
- 田守育啓 (1991) 『日本語オノマトペの研究』神戸商科大学経済研究所
- (1993) 「日本語オノマトペの音韻・形態的特徴」『月刊言語』6月号 大修館書店 pp.70-78
- (1993) 「日本語オノマトペの音韻形態」笈寿雄・田守育啓編『オノマトピア - 擬音・擬態語の楽園 -』勁草書房 pp.1-15
- (1993) 「日本語オノマトペの統語範疇」笈寿雄・田守育啓編『オノマトピア - 擬音・擬態語の楽園 -』勁草書房 pp.16-75
- 田守育啓・ローレンス・スコウラップ (1999) 『オノマトペ - 形態と意味 -』くろしお出版
- 田尻英三 (1989) 「擬音語・擬態語辞典にのぞむ」『国文学解釈と鑑賞』1989-1
- 玉村文郎 (1989) 「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』68 pp.1-12
- 西尾寅弥 (1980) 「「擬音語・擬態語+する」の形式について」『言語と文学』(群馬大学紀要) 20
- 西原忠毅 (1965) 「日本語母音音感の統計的研究」『言語科学』1
- 野間秀樹 (1990) 「朝鮮語のオノマトペ - 擬声擬態語の境界画定、音と形式、音と意味について - [音象徴、音節構造、音節末音法則]」『学習院大学言語共同研究所紀要』13 pp. 24-47
- (1991) 「朝鮮語のオノマトペ - 擬声擬態語と派生・単語結合・シンタックス・テキストについて - [派生、合成語、使用頻度]」『学習院大学言語共同研究所紀要』14 pp. 75-88
- 佐久間鼎 (1933) 「音声心理学」『国語科学講座 3』明治書院
- 佐々木健一 (1983) 「象徴と記号」『国文学』28-15
- 鈴木修次 (1977a) 「擬態語の中の漢語(上)」『みすず』210 pp.25-31
- (1977b) 「擬態語の中の漢語(下)」『みすず』212 pp.25-32
- 鈴木孝夫編 (1976) 『日本語の語彙と表現』大修館書店
- 鈴木雅子 (1984) 「擬声語・擬音語・擬態語」鈴木一彦・林巨樹編『研究資料 日本文法4』



- 明治書院 pp. 160-201
- ジョーデン, エリノア H.(1982)「擬声語・擬態語と英語」國廣哲彌編『日英語比較講座 第4巻 発想と表現』大修館書店 pp.113-140
- 波多野完治 (1954)『文章心理学入門』新潮社
- 堀井令以知 (1986)「擬音語・擬態語の言語学」『日本語学』5-7 明治書院 pp.4-12
- 日向茂男 (1986)「マンガの擬音語・擬態語(1)」『日本語学』5-7 明治書院 pp.57-67
- (1991)「語形からみた擬音語・擬態語」『東京学芸大学紀要(第2部門人文科学)』第42集 pp. 59-70
- (1993)「オノマトペの魅力」『月刊言語』6月号 大修館書店 pp.20-25
- 許卿姫(ホ・キョンヒ)(1989)「日・韓両言語における音象徴語の比較対照的研究」『日本語教育』68 pp. 56-70
- 北条忠雄 (1977)「音声象徴の諸相とその展開 —方言と国語史に探る—」『文芸研究』86
- 増田アヤ子著 (1993)『すぐに使える実践日本語シリーズ2 擬声語・擬態語(上級)』専門教育出版
- 松田徳一郎 (1989)「英語と日本語の擬音語・擬態語」『日本語教育』68, pp. 112-120
- 松本昭 (1986)「中国語の擬音語・擬態語」『日本語学』5-7 明治書院 pp.33-38
- 宮地裕 (1978)「擬音語・擬態語の形態論小考」『国語学』115
- 矢田部達郎 (1948)「語音象徴について」『心理』(京都大学心理学研究室) 4
- 安居総子 (1986)「子どもたちの擬音語擬態語」『日本語学』5-7 明治書院 pp.47-56
- 安田哲夫 (1978)『—語法中心— 新聞英語の学びかた』ジャパンタイムズ
- 山口仲美 (1986)「古典の擬音語・擬態語 —掛詞式の用法を中心に—」『日本語学』5-7 明治書院 pp.13-23
- スコウラップ, ローレンス(1993)「日・英オノマトペの対照研究」『月刊言語』6月号 大修館書店 pp.48-55
- (1993)「日本語の書きことば・話しことばにおけるオノマトペの分布について」 笈寿雄・田守育啓編『オノマトピア —擬音・擬態語の樂園』勁草書房 pp.77-100
- 渡辺清子 (1980)「日本語と英語に見られる擬声語と擬音語」『日本女子大学文学部紀要』
- (2) 韓国語で書かれた文献
- 강헌규(カン・ホンギョ)(1968a)『음성 상징과 어휘확장 연구(音声象徴と語彙拡張研究)』(ソウル대학교教育大学院修士学士論文)
- (1968b)「음성 상징과 sense 및 meaning 분화에 의한 어휘확장 연구(音声象徴と

- sense および meaning 分化による語彙拡張研究)』『국어교육(国語教育)』11 한국 국어교육 연구회(韓國国語教育研究会)
- 김석득(キム・ソクドク)(1995) 「우리말의 상징성 연구 -음소 상징어와 음소 상징을 가진 말/말맛/파생, 합성 문제- (韓國語の象徴性研究 -音素象徴語と音素象徴を持つ語/語感/派生、合成の問題-)」 『한글(ハングル)』 229 한글학회(ハングル学会) pp.81-131
- 金仁和(キム・インファ)(1995) 『현대 한국어의 음성상징어 연구(現代韓國語の音声象徴語研究)』(梨花女子大学校国文科博士学位論文)
- 김종택(キム・チョン테크)(1968) 「상징어의 연구(象徴語の研究)」 『論文集』 3 大邱教育大学
- 金重燮(キム・チュンソプ)(1995) 「한국어 의태어 어원 연구 (韓國語の擬態語の語源研究)」(慶熙大学校博士学位論文)
- 김홍범(キム・ホンボム) (1995) 『한국어의 상징어의 연구(韓國語の象徴語研究)』(延世大学校国文科博士学位論文)
- Fabre, A.(1967) 「의성어·의태어의 연구(擬聲語·擬態語の研究)」 『문리대 학보(文理大学報)』 13-1 ソウル大学校文理科大学学生会
- Fundling, Dirk (1985) 『한국어 의성·의태어 연구(韓國語の擬聲·擬態語の研究)』 塔出版社 :ソウル [序文のみ韓國語で書かれ、本文はドイツ語]
- 朴東根(パク・トン겐)(1997) 『현대국어 흉내말의 연구(現代韓國語のまねことばの研究)』(建国大学校国文科博士学位論文)
- 박창원(パク・チャンウォン)(1993) 「현대 국어 의성 의태어의 형태와 음운(現代韓國語の擬聲擬態語の形態と音韻)」 『새국어생활(新國語生活)』 국립국어연구원(国立國語研究院) pp.17-53
- 손남익(ソン・ナミック)(1998) 「국어 상징부사어와 공기어 제약(韓國語の象徴副詞語と共起語の制約)」 『한국어 의미학(韓國語の意味学)』 한국어 의미학회(韓國語意味学会) pp.119-134
- 송문준(ソン・ムンジュン)(1988) 「소리흉내말의 씨가름에 대하여(擬聲語の品詞分類について)」 『한글(ハングル)』 200 한글학회(ハングル学会) pp.139-163
- 徐尚揆(ソ・サンギョ)(1992) 「현대 한국어의 시늉말의 문법적 기능에 대한 연구 -풀어말과의 결합관계를 중심으로 -(現代韓國語のオノマトペの文法的機能に関する研究 -用言との結合關係を中心に-)」 『朝鮮學報』 149 輯 朝鮮學會 pp.63-192
- 안백산(アン・백산)(1920)編 「조선어원론(朝鮮語原論)」 『조선문학사(朝鮮文學史):역

- 대문법대계(歷代文法大系)』
- 우인혜(ウ・イネ)(1990) 「시능 부사의 구문론적 제약(樣態副詞の構文論的制約)」 『한국학 논집(韓國學論集)』 17 (漢陽大學校韓國學研究所)
- 유창돈(ユ・チャンドン)(1975) 『어휘사연구(語彙史研究)』 삼우사 : 소울
- 李文圭(イ・ムン규)(1996a) 『현대국어 상징어의 음운·형태론적 연구(現代國語の象徴語の音韻・形態論的研究)』 (慶北大學校國文科博士學位論文)
- (1996b) 「상징어의 형태 확장(象徴語の形態拡張) 『한글(ハングル)』 한글학회(ハングル學會) 234
- 李崇寧(イ・スンニョン)(1978) 「國語音聲象徴論에 대하여(國語音聲象徴論について)」 『언어(言語)』 3-1 한국언어학회(韓國言語學會) pp.1-18
- 이영석(イ・ヨン석)(1994) 「한국어 상징음의 모음조화: 비단선적 음운론적 분석(韓國語의象徴音の母音調和:非單線的音韻論的分析)」 『언어(言語)』 한국언어학회(韓國言語學會)
- (1995) 『A Non-Linear Phonological Analysis of the Ideophone System in Korean』 (소울大學校大學院博士學位論文)
- 이원직(イ・ウォン직)(1969) 『중기 국어의 상징어 연구(中期國語의象徴語의研究)』 (高麗大學校大學院修士學位論文)
- 정인승(チョン・인승)(1938) 「어감 표현상 조선어의 특징인 모음 상대법칙과 자음 가세법칙(語感表現上의朝鮮語의特徵である母音相對法則と子音加勢法則)」 『한글(ハングル)』 6-9 한글학회(ハングル學會)
- 蔡琬(チェ・ワン)(1987a) 『國語 語順의 研究 -反復 및 並列을 中心으로-(國語의 語順의 研究 -反復及び並列을 中心に-)』 國語學會
- (1987b) 「현대 국어의 음성 상징론의 몇 문제(現代國語의音聲象徴論의諸問題)」 『(國語學)』 16 pp.277-300
- (1990) 「음성상징(音聲象徴)」 『국어연구 어디까지 왔나(國語研究何處まで来たか)』 東亞出版社 : 소울 pp.139-145
- (1993) 「의성어·의태어의 통사와 의미(擬聲語·擬態語의統辭と意味)」 국립국어연구원(國立國語研究院) 『새국어생활(新國語生活)』 국립국어연구원(國立國語研究院) pp.54-71
- 許雄(ホ・ウン)(1986) 『국어 음운학 -우리말 소리의 오늘·어제-(國語音韻學 -韓國語의音韻의今日·昨日-)』 샘문화사 : 소울

II. 辞典類

(1) 日本語・英語関係

- 天沼寧編 (1974) 『擬音語・擬態語辞典』 東京堂出版  
 浅野鶴子編 (1978) 『擬音語・擬態語辞典』 角川書店  
 青山秀夫 (1991) 『朝鮮語象徴語辞典』 大学書林  
 阿刀田稔子・星野和子著 (1993) 『擬音語・擬態語使い方辞典』 創拓社  
 梅棹・金田一・阪倉・日野原編 (1989) 『日本語大辞典』 講談社  
 尾野秀一編著 (1984) 『日英擬音・擬態語活用辞典』 北星堂書店  
 大塚高信編 (1970) 『新英文法辞典』 三省堂  
 大塚高信・中島文雄監修 (1982) 『新英語学辞典』 研究社  
 勝俣銓吉郎 (1963) 『New Dictionary of English Collocations』 研究社  
 小西友七 (1980) 『英語基本動詞辞典』 研究社  
 白石大二編 (1982) 『擬声語・擬態語慣用句辞典』 東京堂出版  
 竹林滋他編 (1996) 『ライトハウス英和辞典』 研究社  
 田中春美他 (1988) 『現代言語学辞典』 成美堂  
 チャン, アンドルー(1990) 『<和英>擬態語・擬音語分類用法辞典』 大修館書店  
 日本語教育学会編 (1992) 『日本語教育事典』 大修館書店  
 三戸雄一・笈寿雄也編著 (1981) 『日英対照：擬声語(オノマトペ)辞典』 学書房出版  
 松田徳一郎監修 (1985) 『英語擬音語辞典』 研究社

(2) 韓国語関係

- 青山秀夫 (1991) 『朝鮮語象徴語辞典』 大学書林  
 李熙昇(イ・ヒスン) (1983) 『国語大辞典』 民衆書林  
 intermedia 編(1994) 『日・韓副詞辞典』 흥신문화사：ソウル  
 大阪外国語大学朝鮮語研究室編 (1986) 『朝鮮語大辞典』 角川書店  
 金星出版社編 (1991) 『金星版国語大辞典』 金星出版  
 金星教科書編 (1986) 『New Ace 英韓中辞典』 金星教科書株式会社：ソウル  
 朝鮮語研究会編 (1971) 『조선말 의성의태어사전(朝鮮語擬声擬態語辞典)』 학우서방(学友書房)  
 박용수(パク・ヨンス) (1989) 『우리말 갈래사전(韓国語分類辞典)』 한길사：ソウル  
 ————— (1994) 『새우리말 갈래사전(新韓国語分類辞典)』 ソウル大学校出版部  
 ハングル学会編 (1973) 『새한글사전 (新ハングル辞典)』

- (1992) 『우리말 큰사전(韓国語大辞典)』 語文閣：ソウル  
 安田吉実・孫洛範編著 (1988) 『エッセンス韓日辞典』 民衆書林  
 연변언어연구소편(延辺言語研究所編)(1982) 『조선말 의성의태어분류사전(朝鮮語擬声擬態語分類辞典)』 연변인민출판사(延辺人民出版社)  
 油谷幸利他編 (1993) 『朝鮮語辞典』 小学館

### Ⅲ. 調査資料

#### (1) 日本語・英語関係

- 李御寧 (1984) 『「縮み」志向の日本人』 講談社文庫  
 井上ひさし (1985) 『吉里吉里人』 文芸春秋社  
 五木寛之 (1993) 『生きるヒント』 文化出版局  
 北杜夫 (1965) 『ドクトルマンボウ航海記』 中公文庫  
 ——— (1973) 『ドクトルマンボウ青春記』 中公文庫  
 佐橋喬 (1997) 『基礎からベスト英文読解』 学研  
 外山滋比古 (1975) 『日本語の感覚』 中央公論社  
 野上弥生子 (1996) 『森』 新潮文庫  
 宮沢賢治 (1996) 「風の又三郎」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「祭の晩」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「なめとこ山の熊」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「土神ときつね」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「気のいい火山弾」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「化物丁場」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「ガドルフの百合」 『風の又三郎』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「銀河鉄道の夜」 『銀河鉄道の夜』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「よだかの星」 『銀河鉄道の夜』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 ——— 「どんぐりと山猫」 『注文の多い料理店』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 店  
 ——— 「雪渡り」 『ゼロ弾きのゴーシュ』 (角川文庫クラシックス) 角川書店  
 宮沢賢治 (1994) 「虔十公園林」 『風の又三郎』 ポプラ社  
 宮沢賢治著・John Bester 訳 (1996) 『銀河鉄道の夜 (Night Train to the Stars)』 (講談社  
 バイリンガルブックス) 講談社

(2) 韓国語関係

김정현(キム・チョンヒョン)著 (1996) 『아버지(父)』 문이당 : ソウル

김유영(キム・ユヨン)訳 (1997) 『은하철도의 밤(銀河鐵道の夜)』 푸른나무 : ソウル

김은숙(キム・ウンスク)他 (1992) 『대한민국 문학상 수상동화집 1 (大韓民国文学賞受賞童話集 1)』 문공사 : ソウル

권형술(クオン・ヒョンスル)著(1997) 『편지(手紙)』 바다출판사 : ソウル

法頂(보부천)師談·류시화(リュ・シファ)編 (1998) 『산에는 꽃이 피네(山には花が咲く)』 동쪽나라 : ソウル

李御寧(이·오리온)著(1991) 『말(ことば)』 文学世界社 : ソウル

지선옥(チ・ソノク)編 (1996) 『한국 전래 동화 상·하(韓国伝来童話 上·下)』 바른사 : ソウル

## 謝 辞

本論文の執筆にあたり不安と焦りからいつも余裕のなかった私を中條直樹先生は常に叱咤激励をして下さり、完成にこぎつけるまでの支えとなって下さいました。心より感謝申し上げます。

成田克史先生には本論文の詳細なところまで丁寧に目を通していただき多くの貴重なアドバイスをいただきました。厚く御礼申し上げます。

本論文は飯田秀敏先生の細心のご指導がなければまとめあげることは不可能でした。飯田秀敏先生の指導生になって以来、学問の基本からご教示いただきました。そして研究者および教育者としてのあるべき姿を常にお示し下さいました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

最後に、私に様々なチャンスを与えて下さった国際開発研究科に深く感謝致します。

李 殷娥